



(d01-002)

北海道観光 50年の軌跡

ーグラフでみる北海道観光ー

北海道開発協会では、インバウンドデータベースなど、北海道の観光や地域経済に関連した主要な統計資料を取りまとめ、ホームページに掲載しています。

本資料では、これらの統計データを用いて、北海道観光の現状に関する主要な要素についてグラフ等により表しています。

「北海道インバウンドデータベース」 <http://inbound-jp.info/database/>

「地域づくりの動向 令和元年度版」 https://www.hkk.or.jp/kenkyusho/file/report_202003-1.pdf

2020年12月21日

(一般財団法人)北海道開発協会 開発調査総合研究所



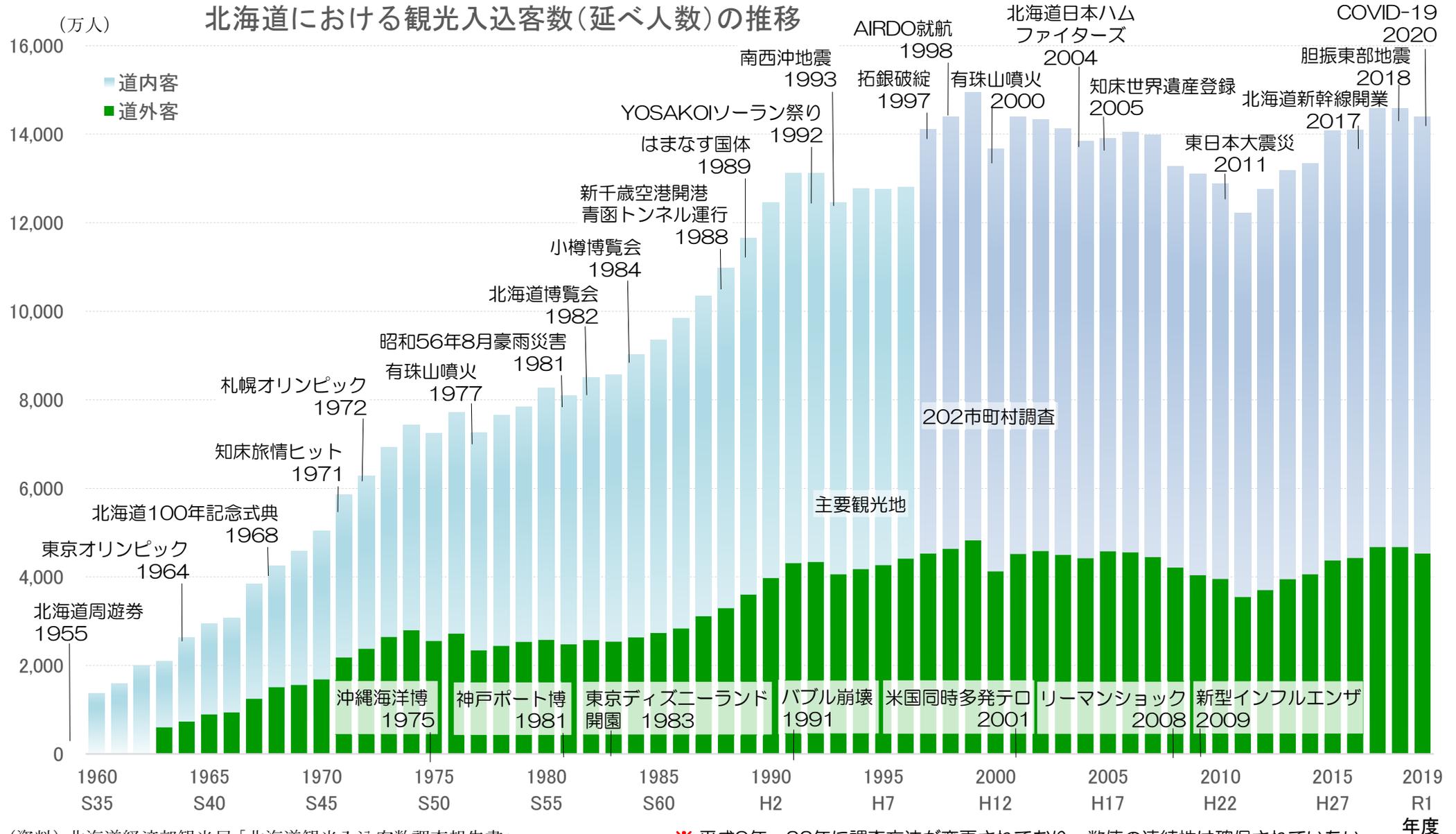
- 北海道の観光入込客数
 - (参考)北海道経済の動向
- 道外からの観光客
 - (参考)わが国の訪日外客
- 北海道と本州を結ぶ輸送機関
- 北海道の宿泊施設と宿泊客
- 北海道の訪日外国人来道者
- 北海道観光の経済効果
 - 観光消費額
 - 宿泊・飲食業
 - 小売業
 - 地域の雇用創出
- ポストコロナ時代の北海道観光
 - 北海道経済の見通し
 - 第5期北海道観光のくにづくり行動計画
(中間取りまとめ・素案)
- 観光地の変遷
 - ニセコ
 - 登別温泉
 - 川湯温泉
 - トマムリゾート
 - 豊富温泉
 - 知床
 - 芦別

北海道の観光入込客数



北海道の観光入込客数(延べ人数)は、道内客、道外客とも、日本経済の拡大に伴って増加してきましたが、バブル崩壊後は減少基調となりました。

東日本大震災以降は、再び増加基調に転じましたが、2018年度からは減少が続いています。

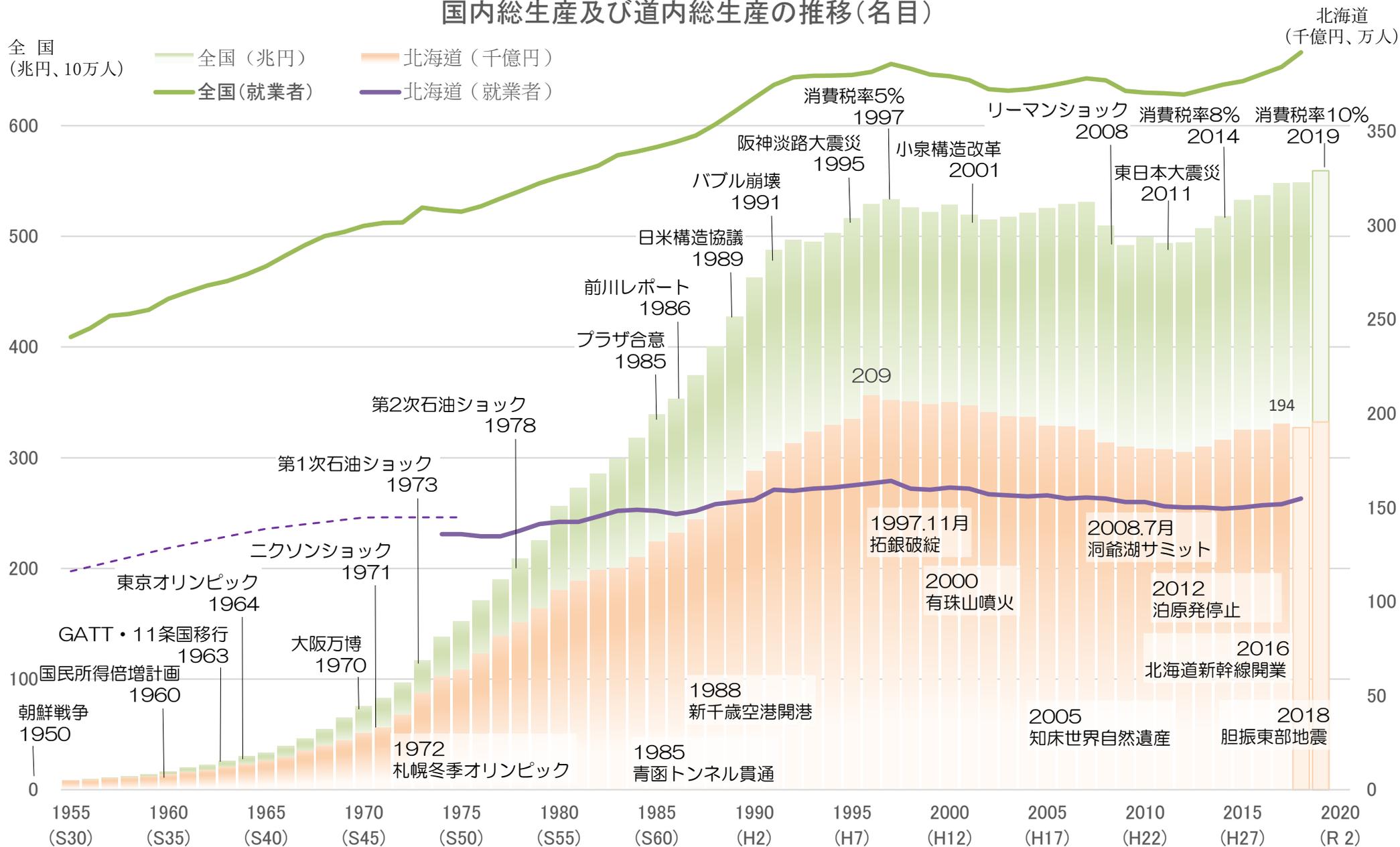


(参考) 北海道経済の動向



道内総生産(名目)の推移をみると、北海道の経済は、1996(平成8)年をピークに減少傾向となっていました。2013年以降は持ち直しが続いていました。

国内総生産及び道内総生産の推移(名目)

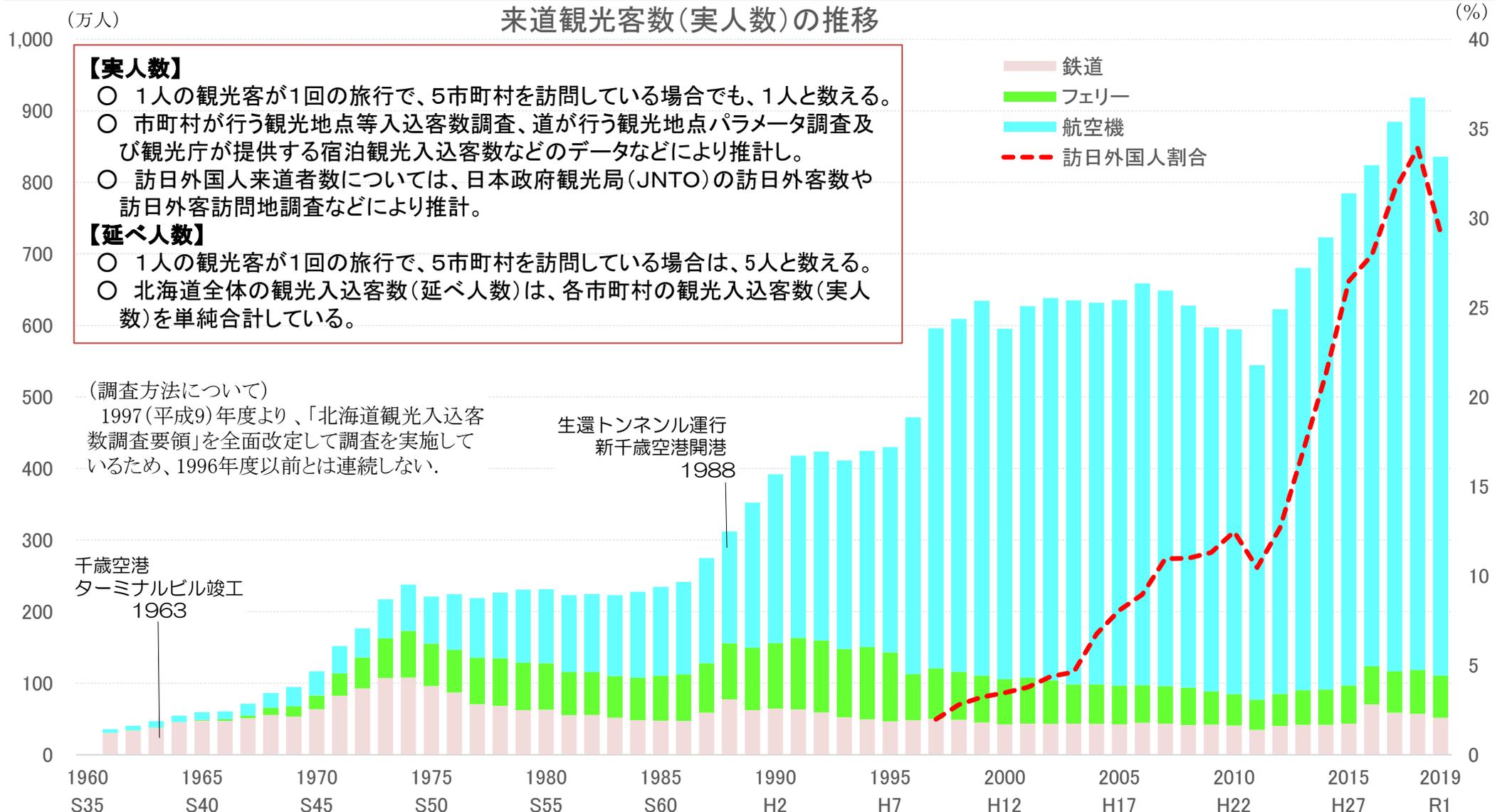


(資料) 内閣府「国民経済計算」、総務省「労働力調査」

※ 全国の2019年、北海道の2018年・2019年は見込み



道外から北海道を訪れる観光客は、1970年代までは主に国鉄とフェリーを利用していました。80年代に入ると航空機利用が急速に拡大し、バブル崩壊以降も路線の拡充や、低廉なパッケージ商品等により増加傾向が続きました。2012年度以降には、訪日外客の増加によって、来道観光客が急増しました。



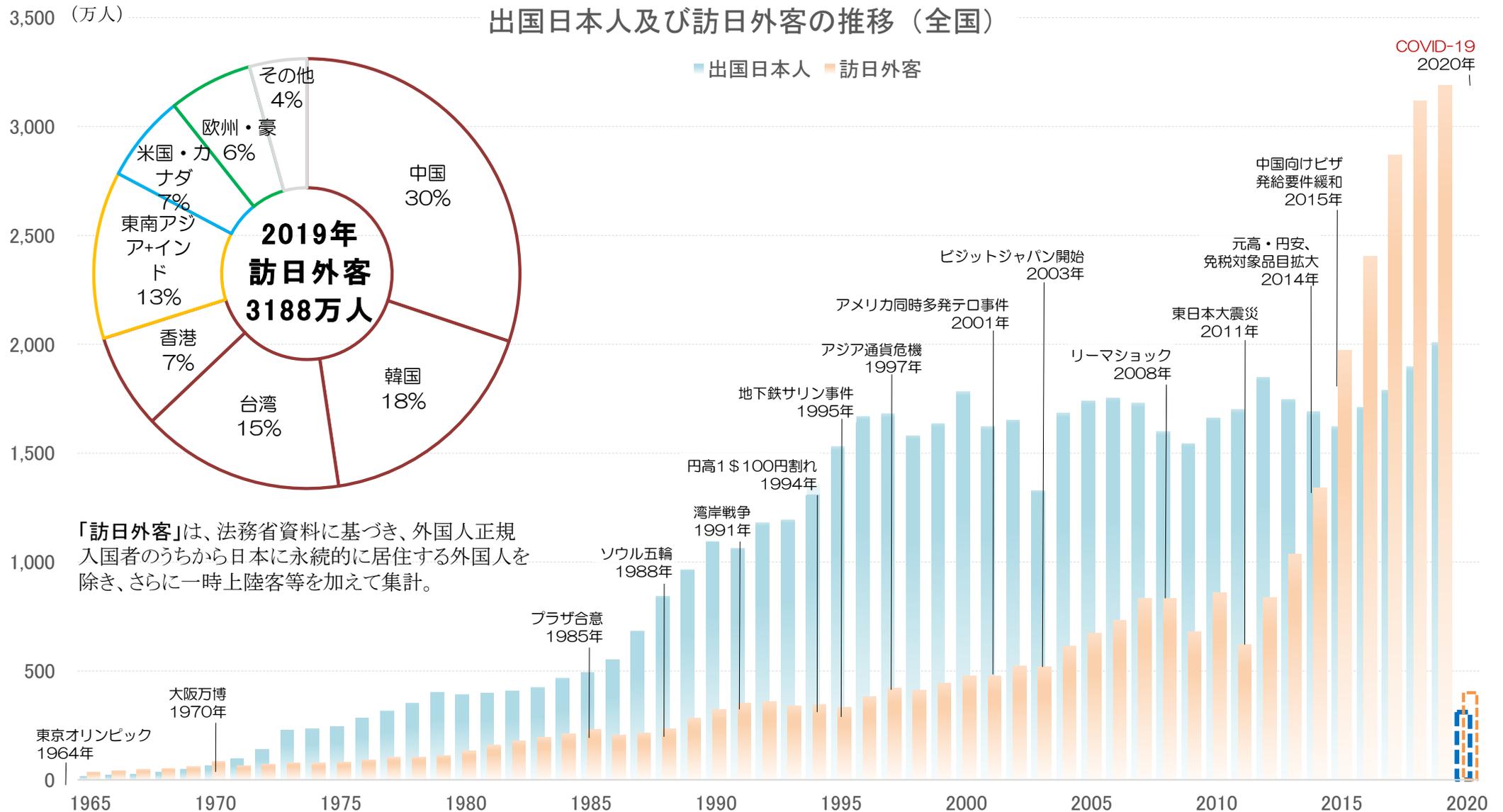
(資料) 北海道経済部観光局「北海道観光入込客数調査報告書」

※ 2020年度以降の輸送手段は「来道者輸送実績」による推計値



2003年に政府による観光立国の実現に向けた取組が始まって以降、日本に観光等で訪れる外国人旅行者数は順調な増加が続いてきました。

2010年代には、中国などアジア諸国を中心に、戦略的なビザ発給の緩和措置が講じられ、東アジアからの観光客が急増し、2019年の訪日外客数は約3,188万人に達しました。

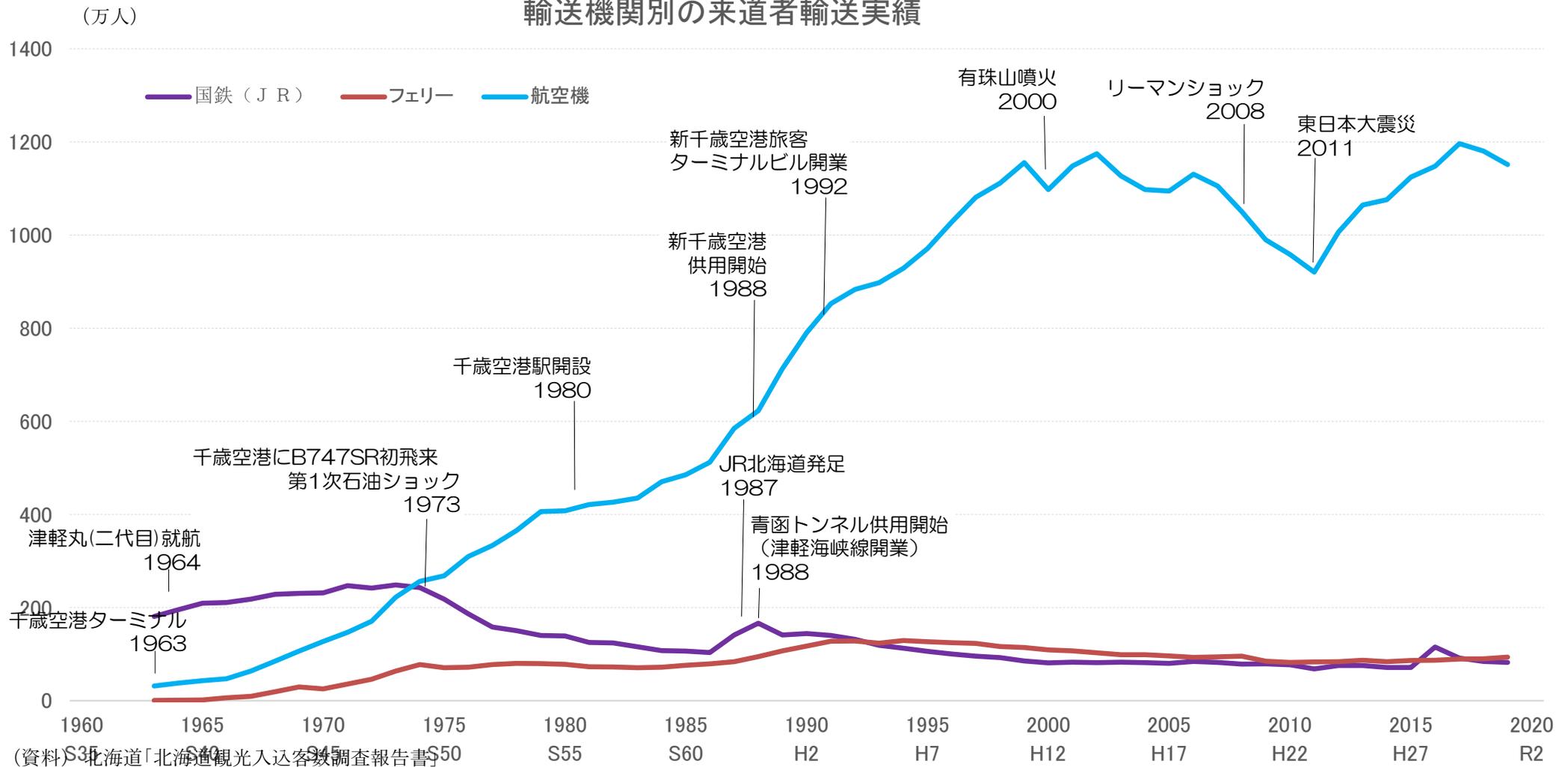




わが国経済の高度成長に伴い、本州と北海道間の旅客・物資輸送量が急速に増加しました。これに対応し、国鉄は自動化装置を備えた津軽丸型の青函連絡船を導入し、青函航路は30往復のダイヤにまで増やされました。しかし、石油ショックを契機に貨物量は大きく落ち込み、その後は旅客数も減少していきます。

一方、航空利用では、1974年には羽田・千歳間でB-747SR(日本国内専用の500席仕様)が就航し、航空機による大量輸送が始まりました。その後も新千歳空港の供用により全国各地に路線が拡大され、空路での来道者が増加していきました。

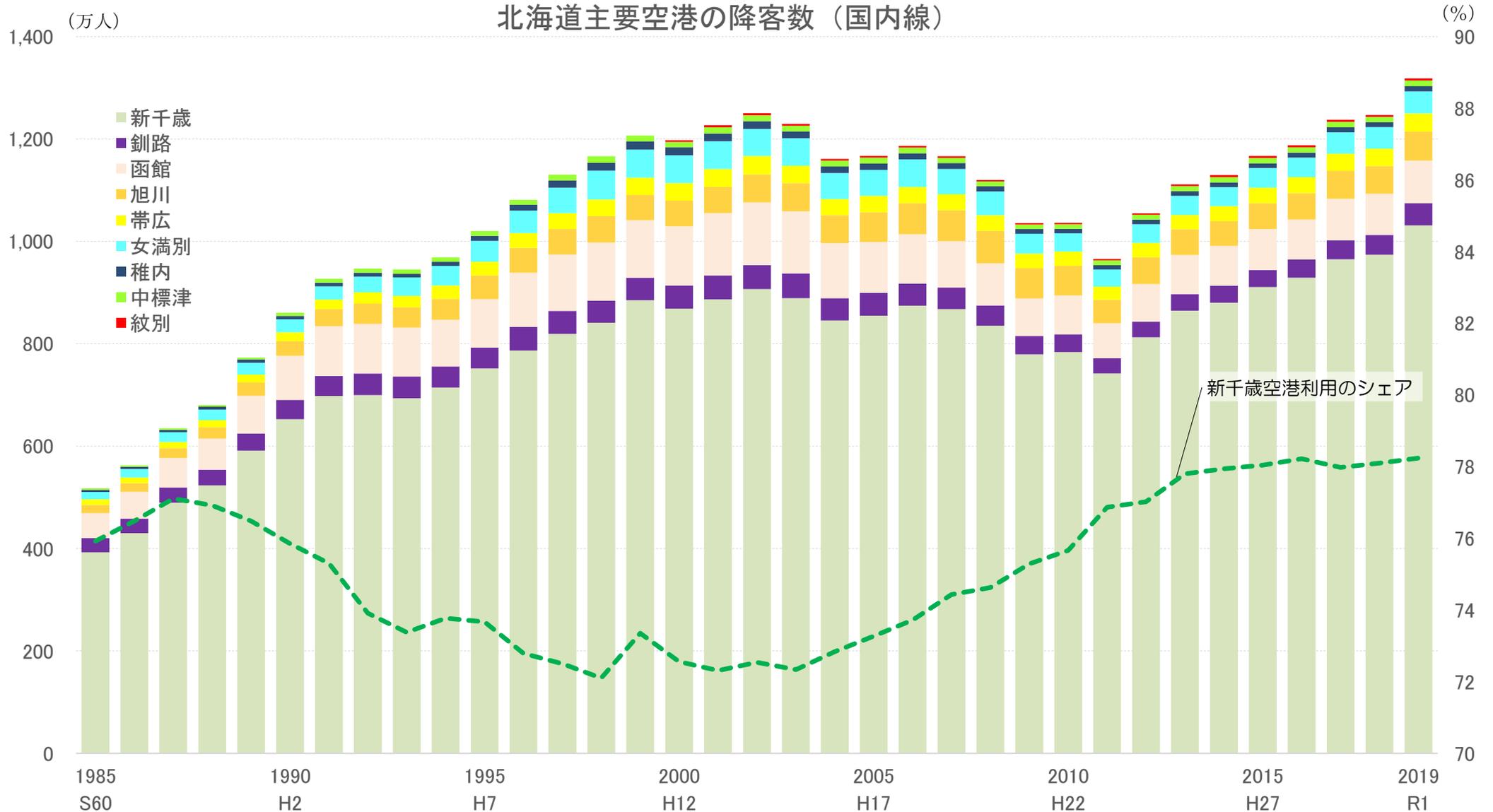
輸送機関別の来道者輸送実績



北海道と本州を結ぶ輸送機関



北海道の航空旅客数は、幹線路線における大型機(B-747SR、DC-10、L-1011)の導入などを背景に、1980年代まで顕著に増加しました。バブル崩壊以降も地方路線の拡充や、低廉なパックツアー商品等により増加傾向が続きましたが、2007年度以降になると、地方路線の減便や機材の小型化等の影響により、減少傾向に転じました。一方、2000年代に入って、新千歳空港利用の割合が高まっています。



(資料) 国土交通省「航空輸送統計」

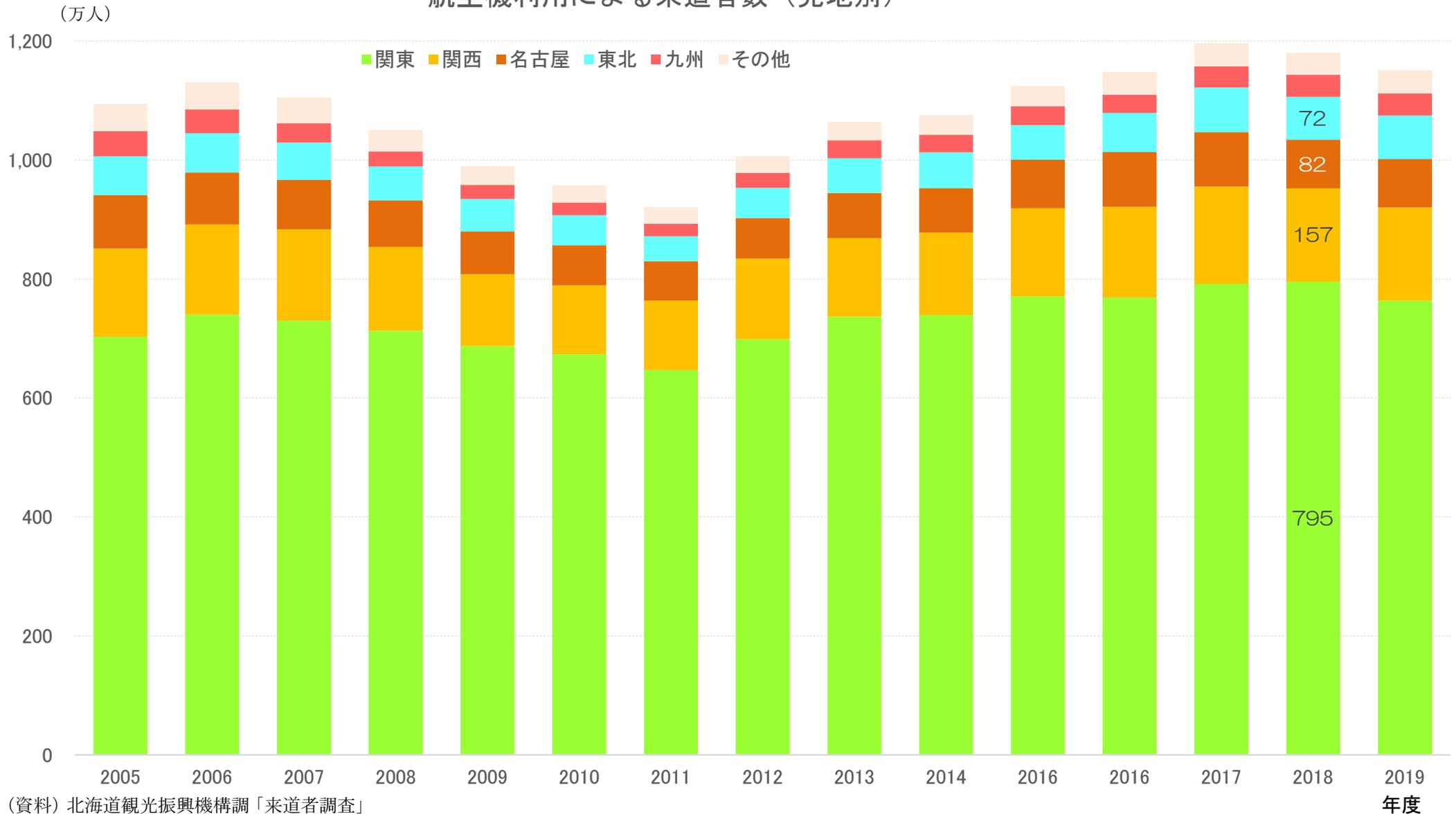
※ 1999年までは、定期便のみ

北海道と本州を結ぶ輸送機関～来道者の発地



北海道には、東京をはじめとする大都市圏から多くの人々が訪れています。
航空機を利用する来道者の3分の2が羽田、成田、茨城空港を発地としており、さらに、関西、名古屋を含めると約9割を占めています。

航空機利用による来道者数（発地別）



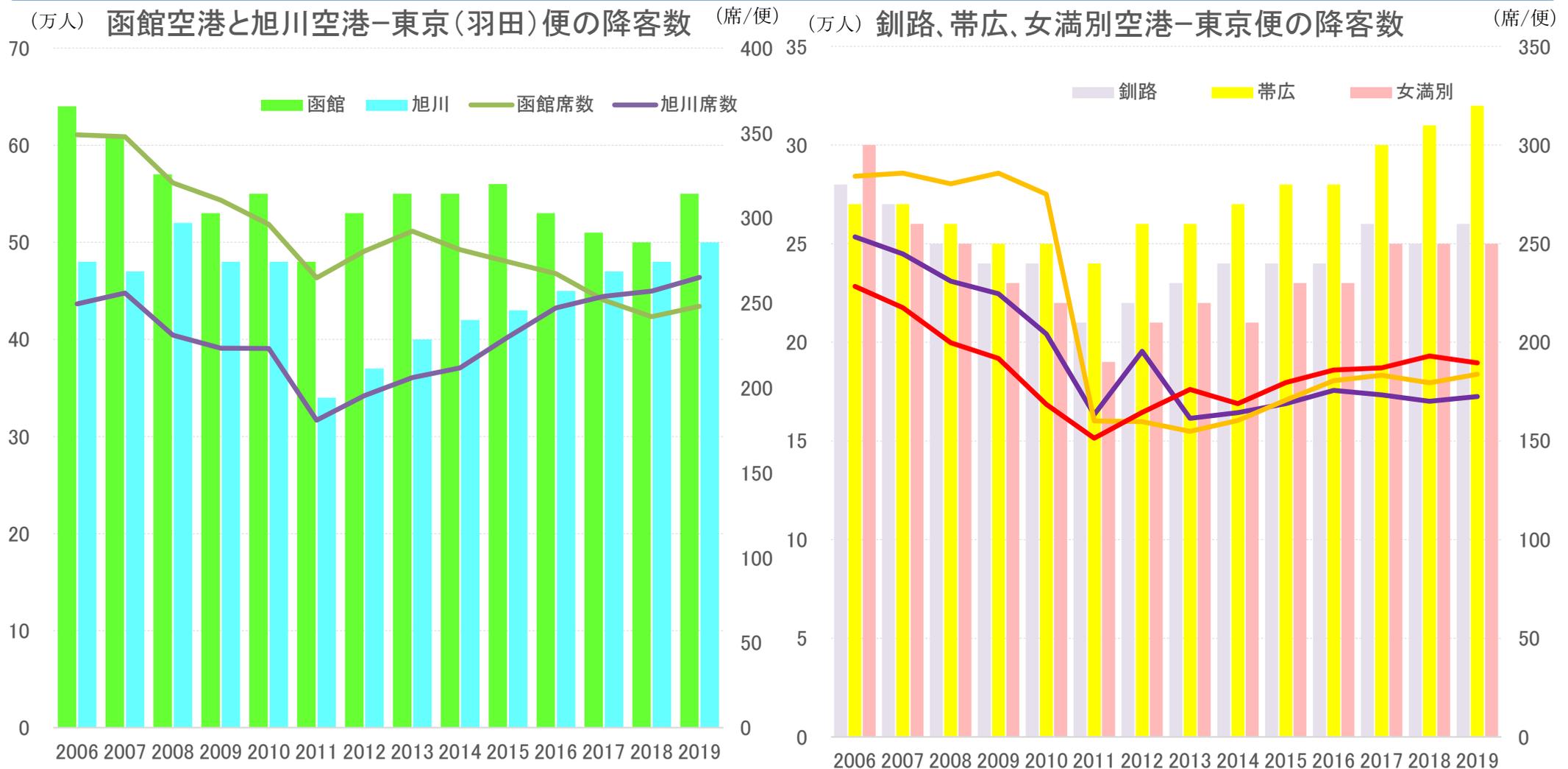
北海道と本州を結ぶ輸送機関～地方空港



羽田-函館間には、1982年にB-747が就航し、1999年には3000m滑走路の完成により、冬季も安定的な着陸ができるようになりました。

帯広空港では、2010年度まではA300-600R(290席)が就航していましたが、2011年3月からはB737-800(165席)、MD90(150席)が使用されています。

釧路空港においては、A300、B767等の中型ジェット機が就航していましたが、2000年には2500m滑走路が共用となり、A300(300席)も運航されるようになりました。



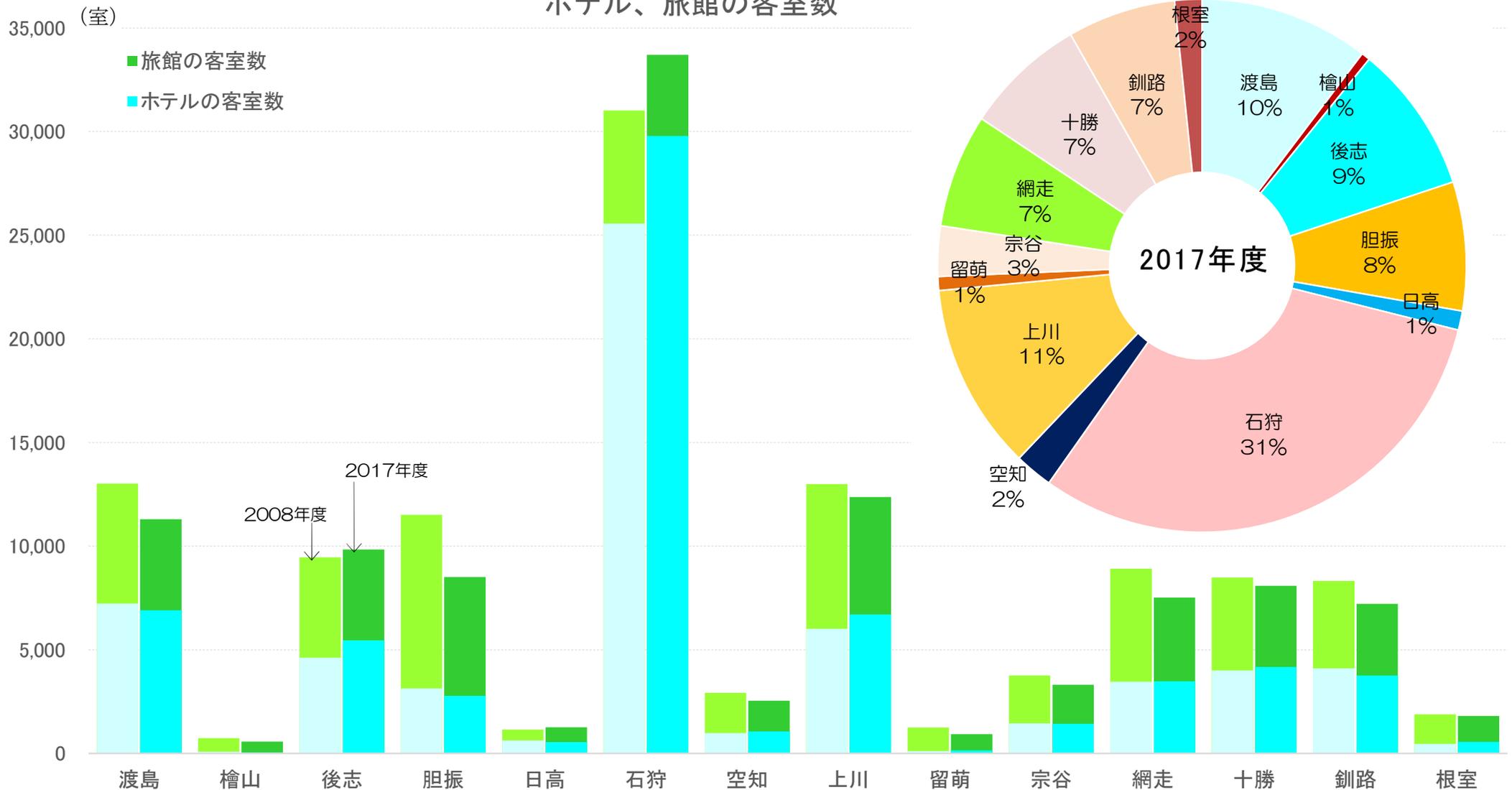
(資料) 国土交通省「航空輸送統計」



2017年度のホテル、旅館の客室数は、石狩が31%と最も多く、次いで、上川の11%、渡島10%、後志9%、胆振8%の順となっています。

近年は、ホテル営業の施設が増加する一方、旅館の廃業が進んでいるため、総室数は減少傾向となっています。

ホテル、旅館の客室数

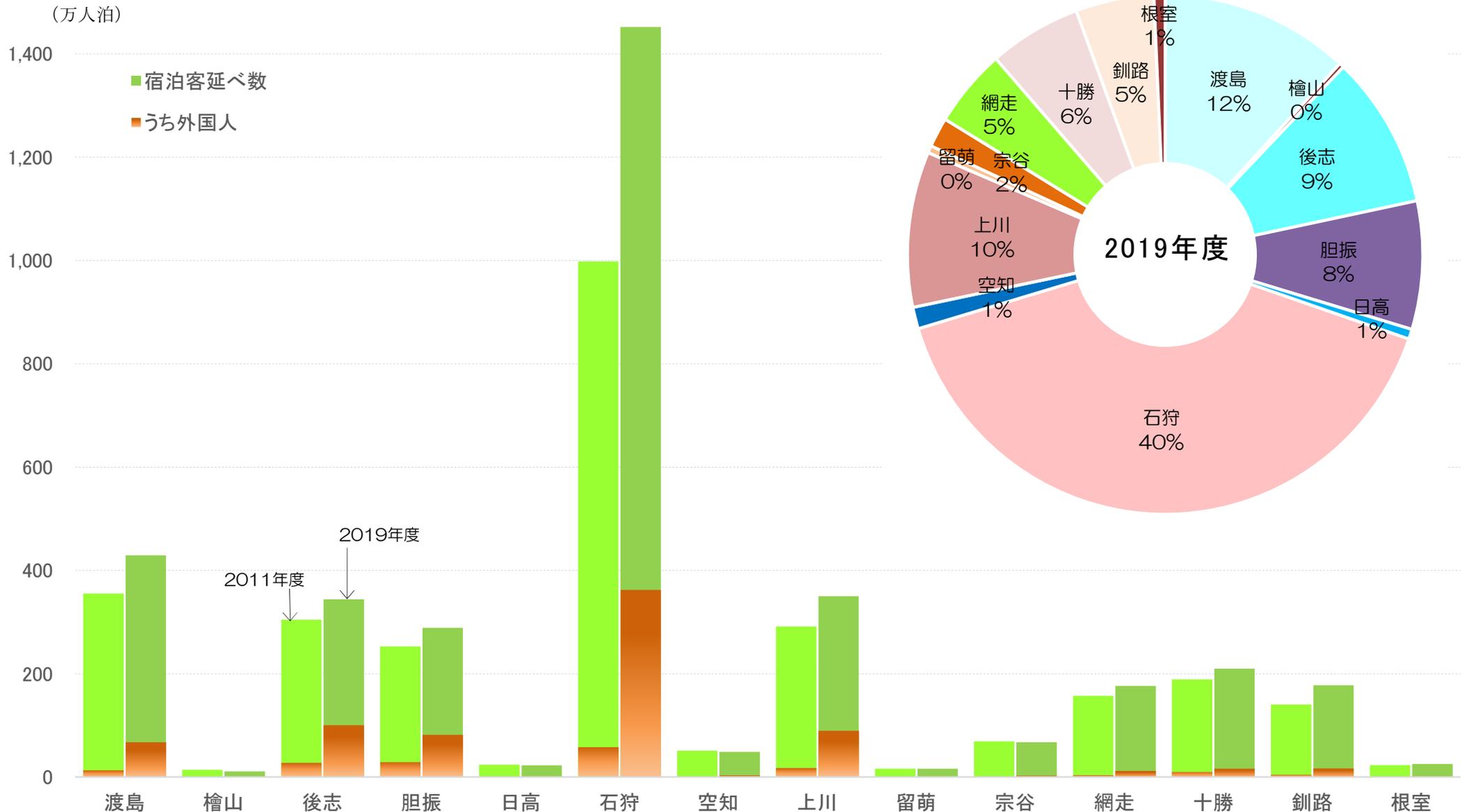


(資料) 北海道保健福祉部「北海道保健統計年報」



2019年度の宿泊客数(延べ数)は、石狩が40%と最も多く、次いで、渡島12%、上川10%、後志10%、胆振8%、十勝6%の順となっています。

地域別の宿泊客数(延べ数)



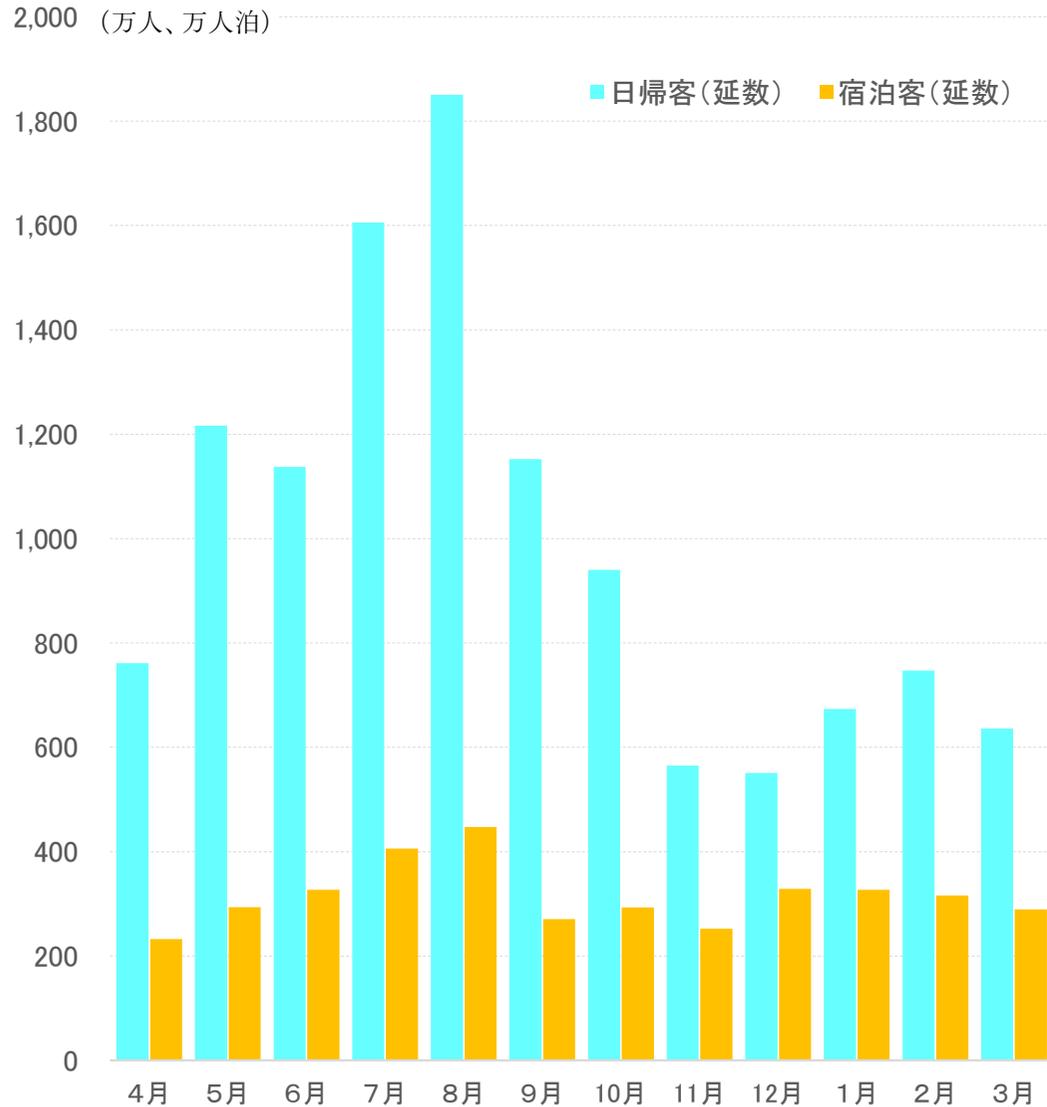
(資料) 北海道経済部「北海道観光入込客数調査報告書」

北海道の宿泊施設と宿泊客



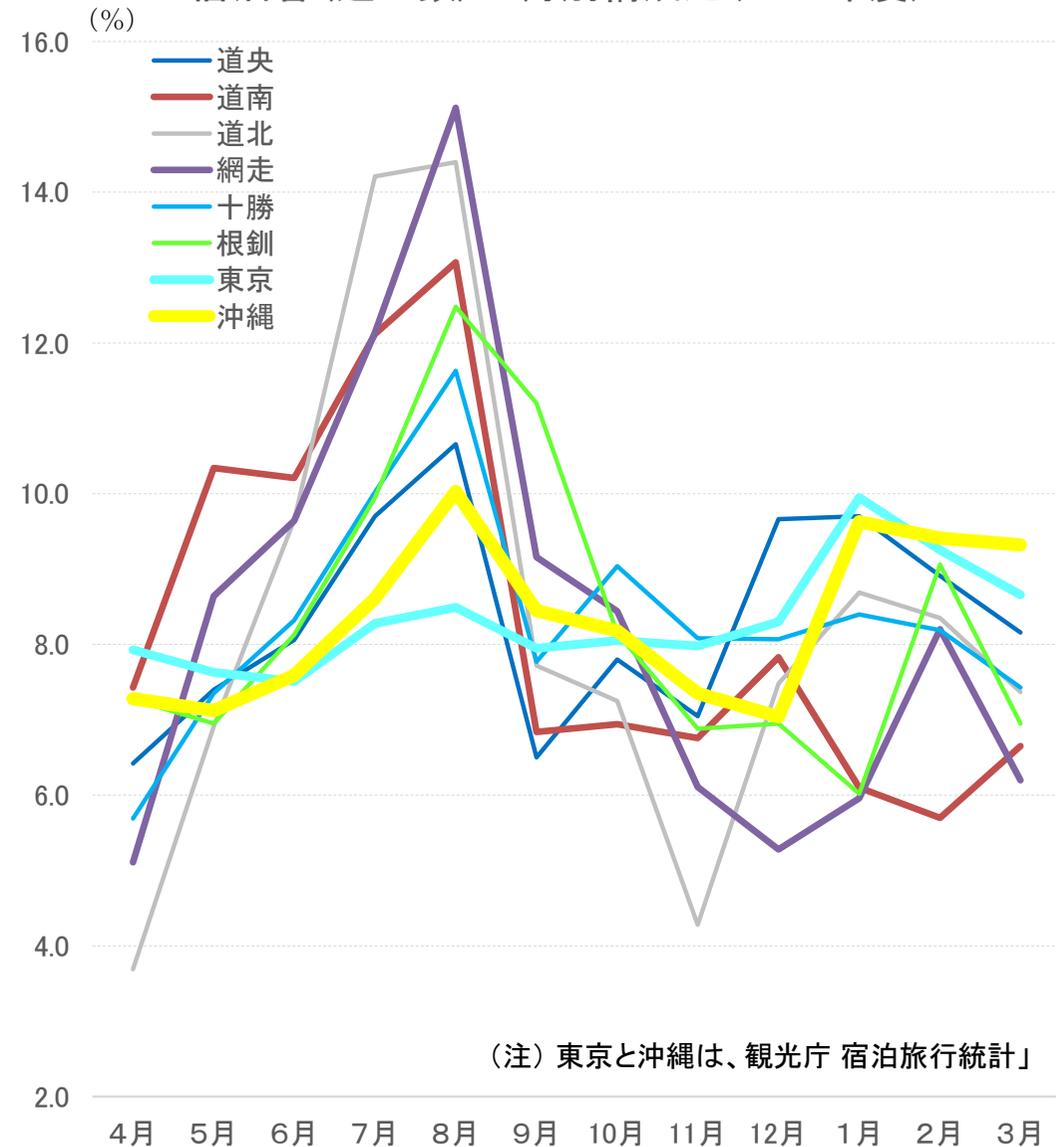
北海道の観光客は夏季に集中する傾向があり、秋には大きく落ち込みます。
 宿泊客(延べ数)も同様の傾向が見られますが、圏域別にみると、道北や網走、道南では、ピークとオフの差が大きくなっています。

月別の観光入込客数(2018年度)



(資料) 北海道経済部観光局「北海道観光入込客数調査報告書」

宿泊客(延べ数)の月別構成比(2018年度)



(注) 東京と沖縄は、観光庁 宿泊旅行統計

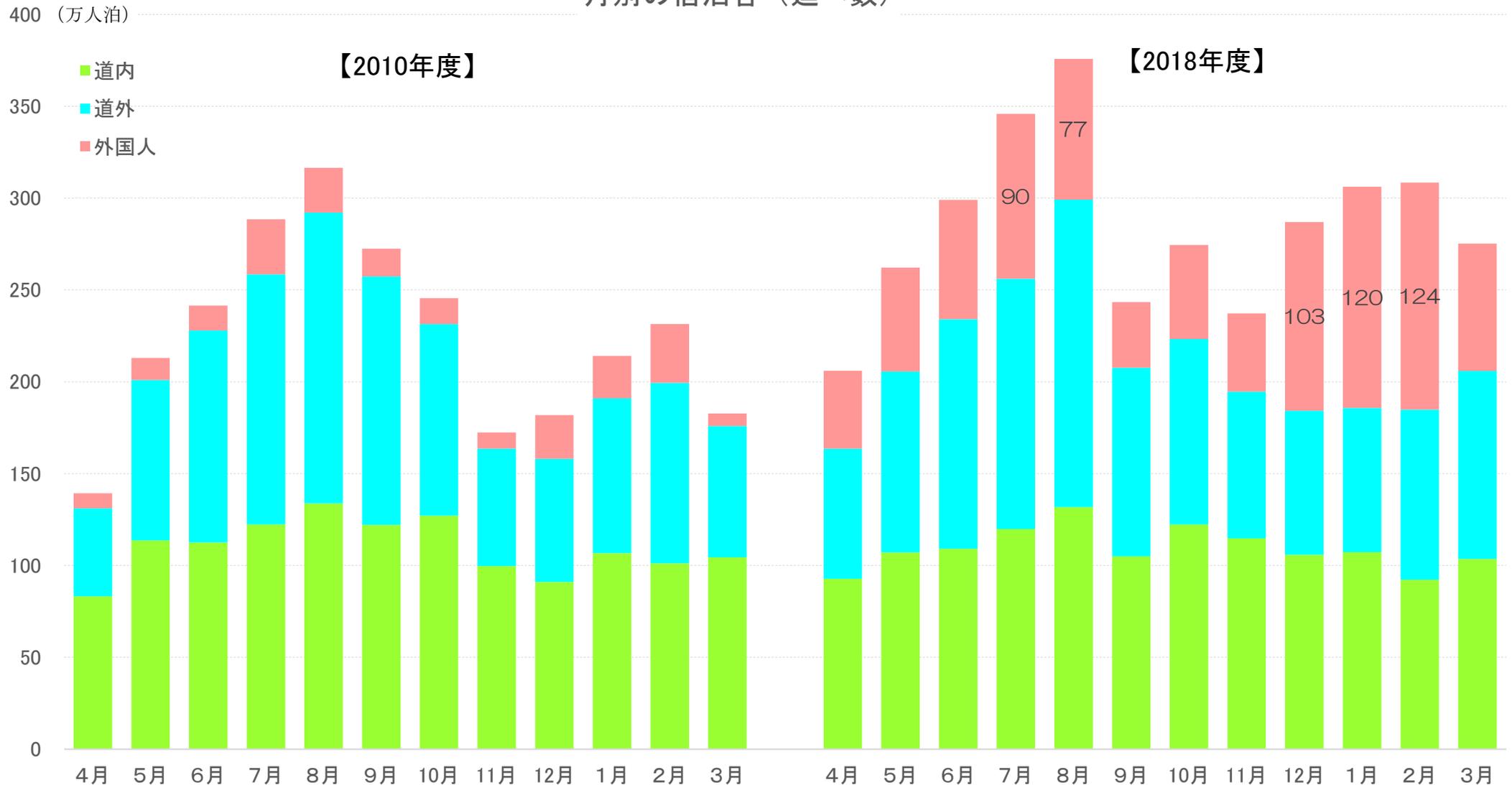
(資料) 北海道経済部観光局「北海道観光入込客数調査報告書」



宿泊施設の統計をみると、道内客では月別の宿泊客(延べ数)は大きく変動しませんが、道外客では夏季の集中が顕著となっています。

一方、外国人観光客は、夏の宿泊数も多いのですが、冬季がピークとなることから、全体として、施設利用の平準化に結びついているようです。

月別の宿泊客(延べ数)



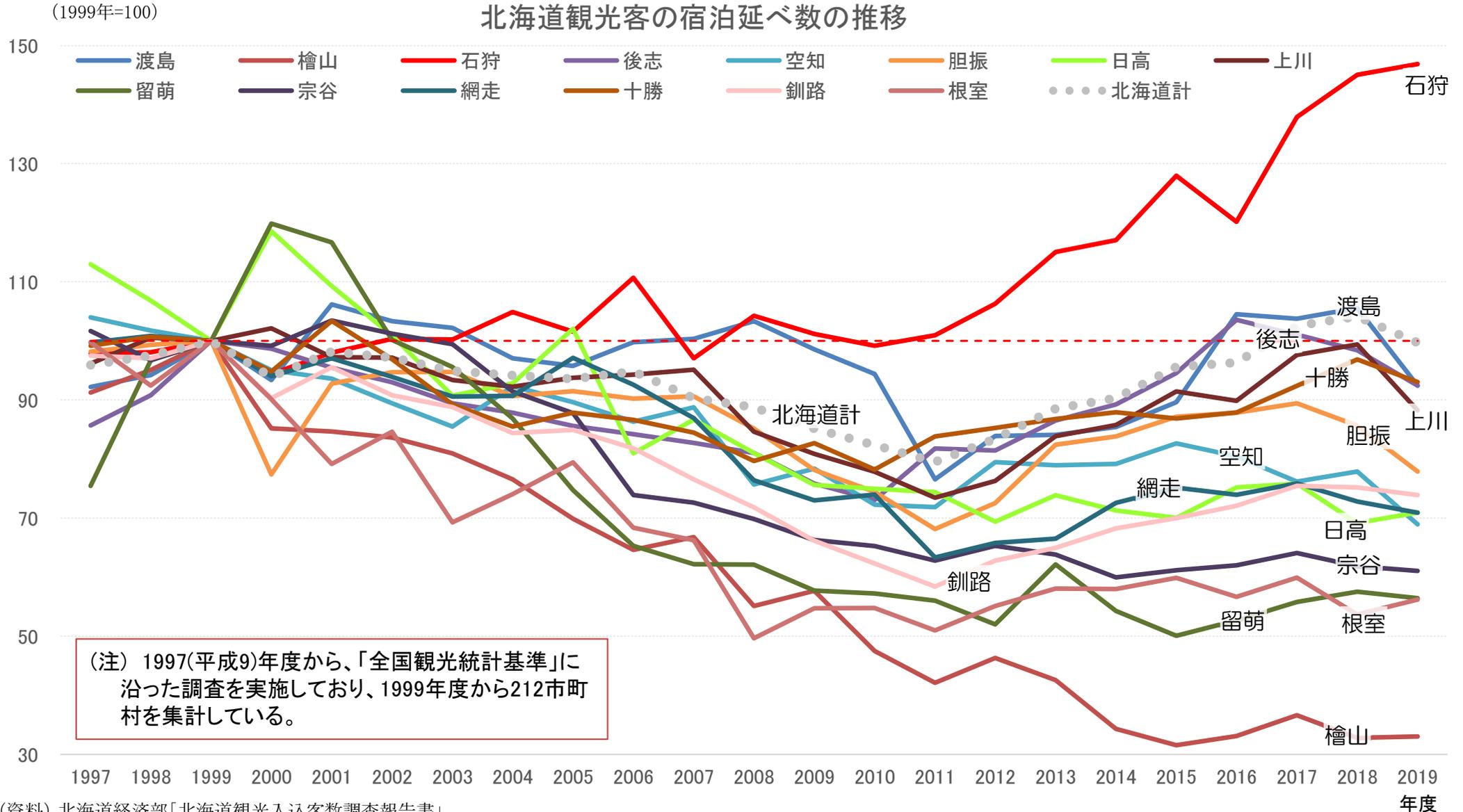
(資料) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

北海道の宿泊施設と宿泊客



北海道の観光客(宿泊客)は、有珠山噴火(2000年3月)以降、減少が続いていましたが、2012年度からは、ほとんどの地域で増加傾向にあります。この間の動向を地域別にみると、石狩では大きな落ち込みがなく、2012年度以降では急速に増加しています。渡島や後志、十勝、上川では、ほぼ噴火前の水準に回復しています。一方、檜山や留萌、宗谷、根室では落ち込みからの回復がみられていません。

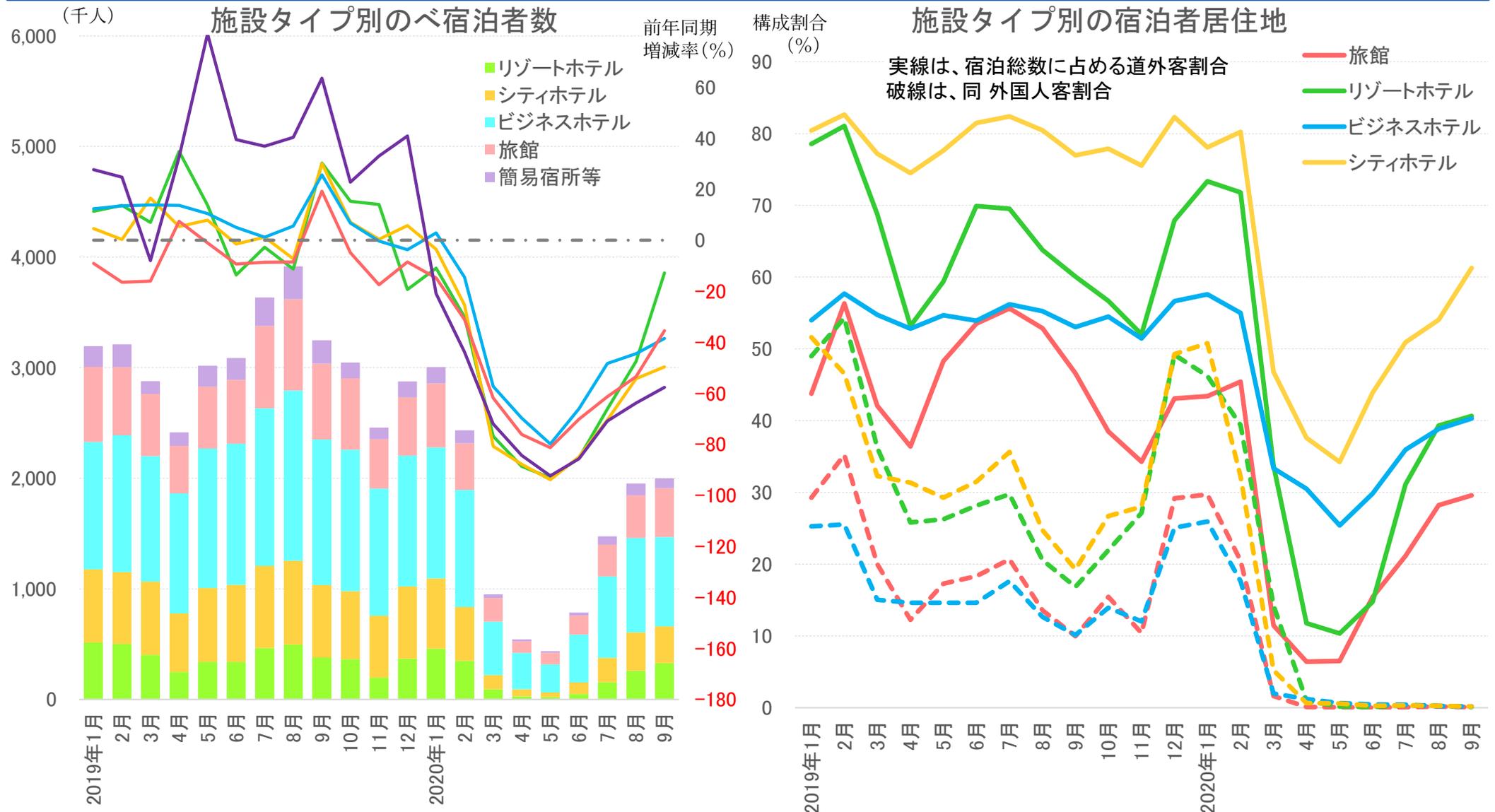
北海道観光客の宿泊延べ数の推移



北海道の宿泊施設と宿泊客～足下の状況



北海道の2020年9月の延べ宿泊者数は200万人泊で、8月より微増となりましたが、前年同月比では△38.4%まで回復しました。なお、外国人宿泊者は4千人を下回っています。
 リゾートホテルや旅館では道内客とともに道外客も増加し、前年同月の7～8割の水準となりました。シティホテルでは、前年の半分程度に止まっています。



(資料) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

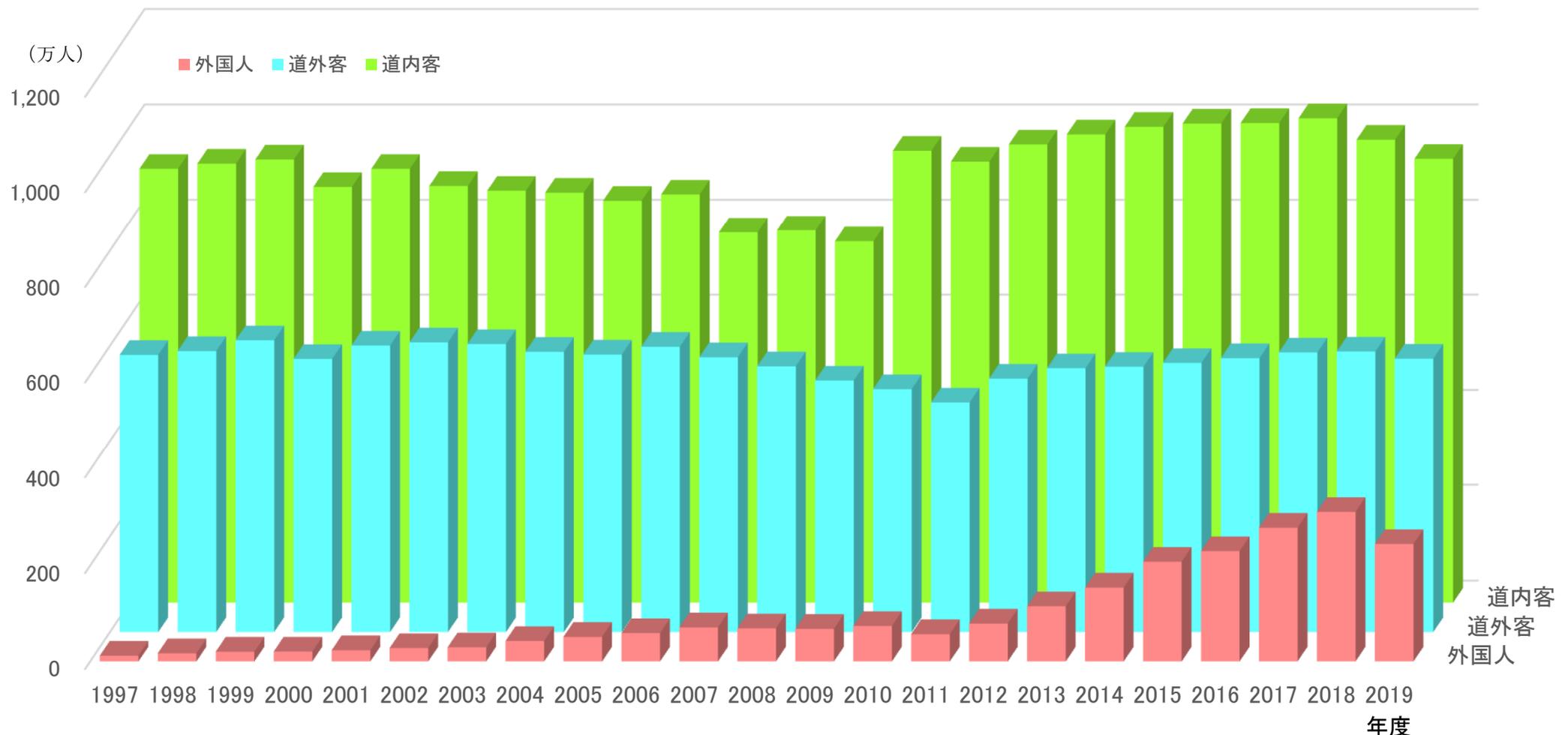
北海道の訪日外国人来道者



北海道の観光入込客数は、有珠山噴火(2000年3月)以降は減少基調が続き、東日本大震災により大きく落ち込みました。その後は、景気の回復に伴い、国内外の観光需要が堅調に推移したこと等から、増加に転じ、2012年以降は訪日外国人来道者数の増加が顕著となります。

訪日外国人来道者数は、2011年度を除き、毎年度増加が続いていましたが、2019年度はCOVID-19パンデミック等の影響で、大きく減少しました。

北海道の観光入込客数(宿泊客の実人数)の推移



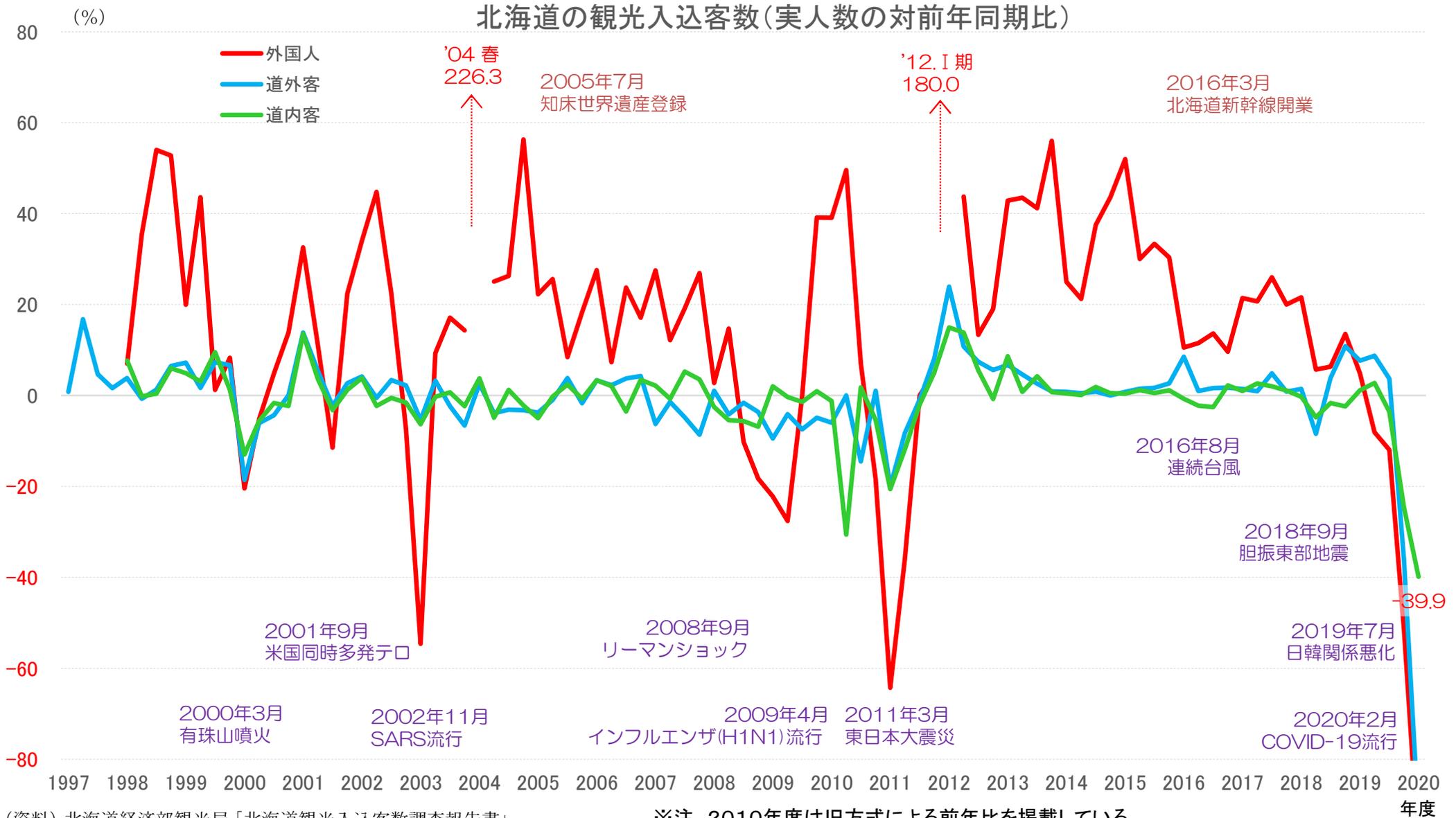
(資料) 北海道経済部観光局「北海道観光入込客数調査報告書」

※注 2010年度から調査方法を観光庁基準に変更しているため、それ以前とは連続しない

北海道の訪日外国人来道者



国内の観光客は、景気の動向や自然災害によって入込数の変動がみられますが、訪日外客は、それに加えて、国際的な感染症拡大や為替相場、外交関係の緊張などの事情によっても変動しています。2020年度4～6月期の道外客は前年に比べ9割減となり、特に、外国人観光客がほぼゼロという事態に象徴されるように、インバウンドマーケットは、需要変動のリスクが相対的に高いといえます。



(資料) 北海道経済部観光局「北海道観光入込客数調査報告書」

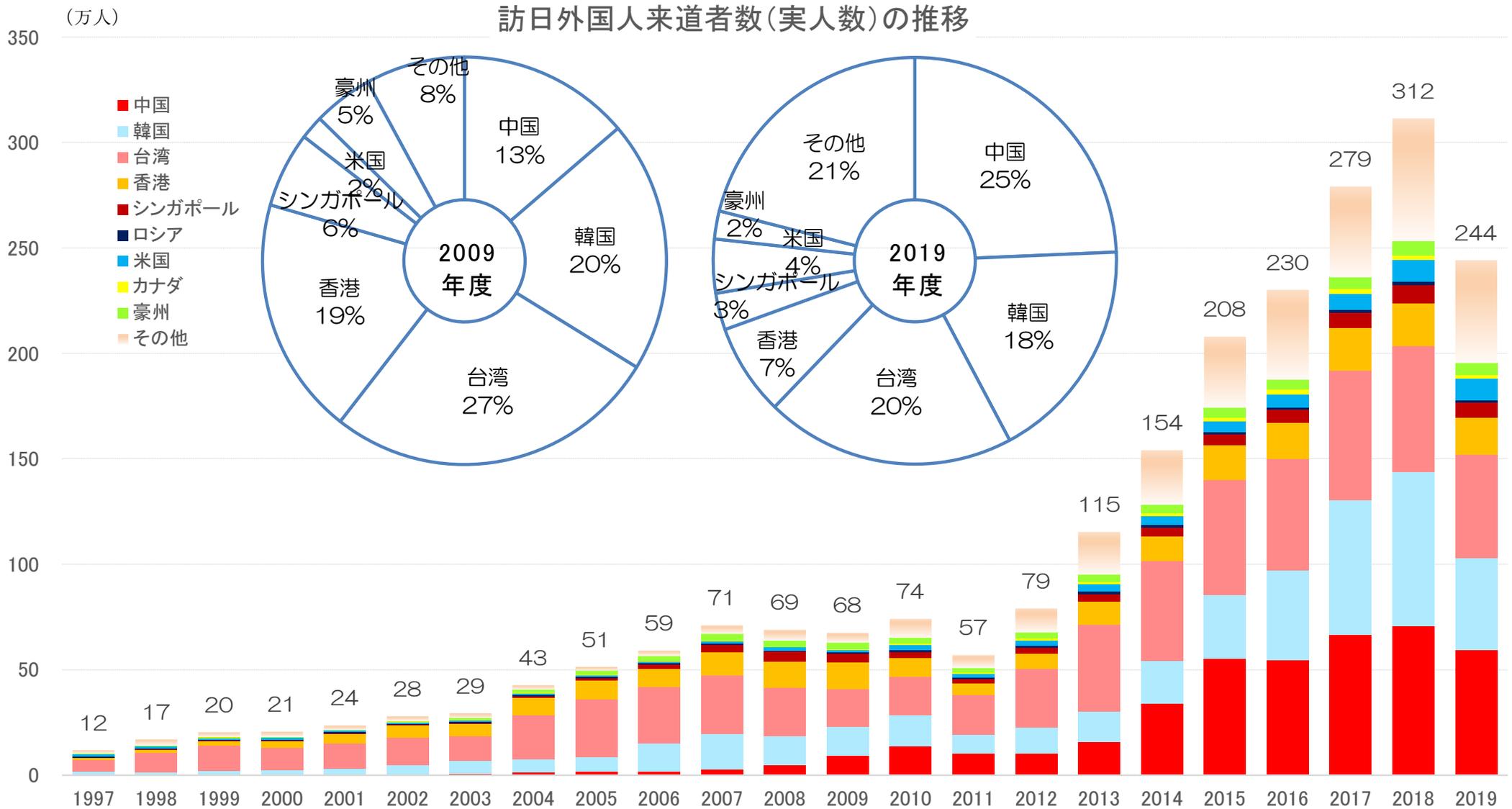
※注 2010年度は旧方式による前年比を掲載している

北海道の訪日外国人来道者



アジア諸国での北海道人気を背景に、2000年頃から台湾や韓国を中心に訪日外国人来道者数の増加が続いてきました。2014年以降は、ビザ発給の緩和措置等を背景に、中国が増加しています。

近年は、北海道とアジアを結ぶ国際線の新規就航や増便もあり、2018年度には312万人の外客が北海道を訪れました。これは、日本全体の訪日外客総数(2018年度3,168万人)の9.8%にあたります。



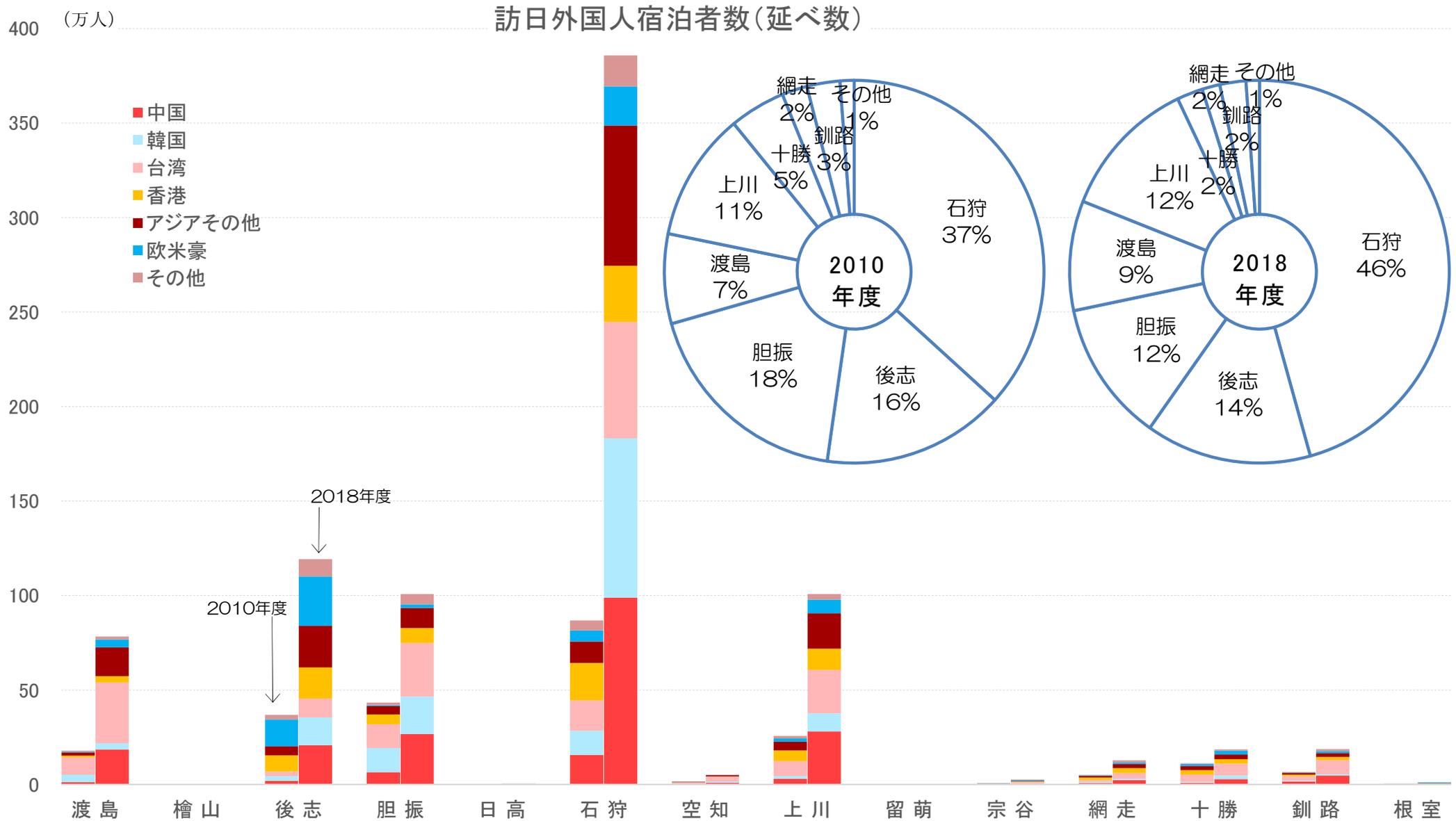
(資料) 北海道経済部観光局「北海道観光入込客数調査報告書」

(注) 2010年度以降は、新方式による調査数値であり、それ以前とは連続しない

北海道の訪日外国人来道者



訪日外国人来道者の宿泊延べ数は、2018年度では石狩が386万人泊と最も多く、これに後志、胆振、日高、空知を加えた道央圏は、全道の72.4%を占めていました。圏域別では、次いで、道北圏(上川、留萌、宗谷)、道南圏(渡島、檜山)の順となっていました。



(資料) 北海道経済部観光局「北海道観光入込客数調査報告書」

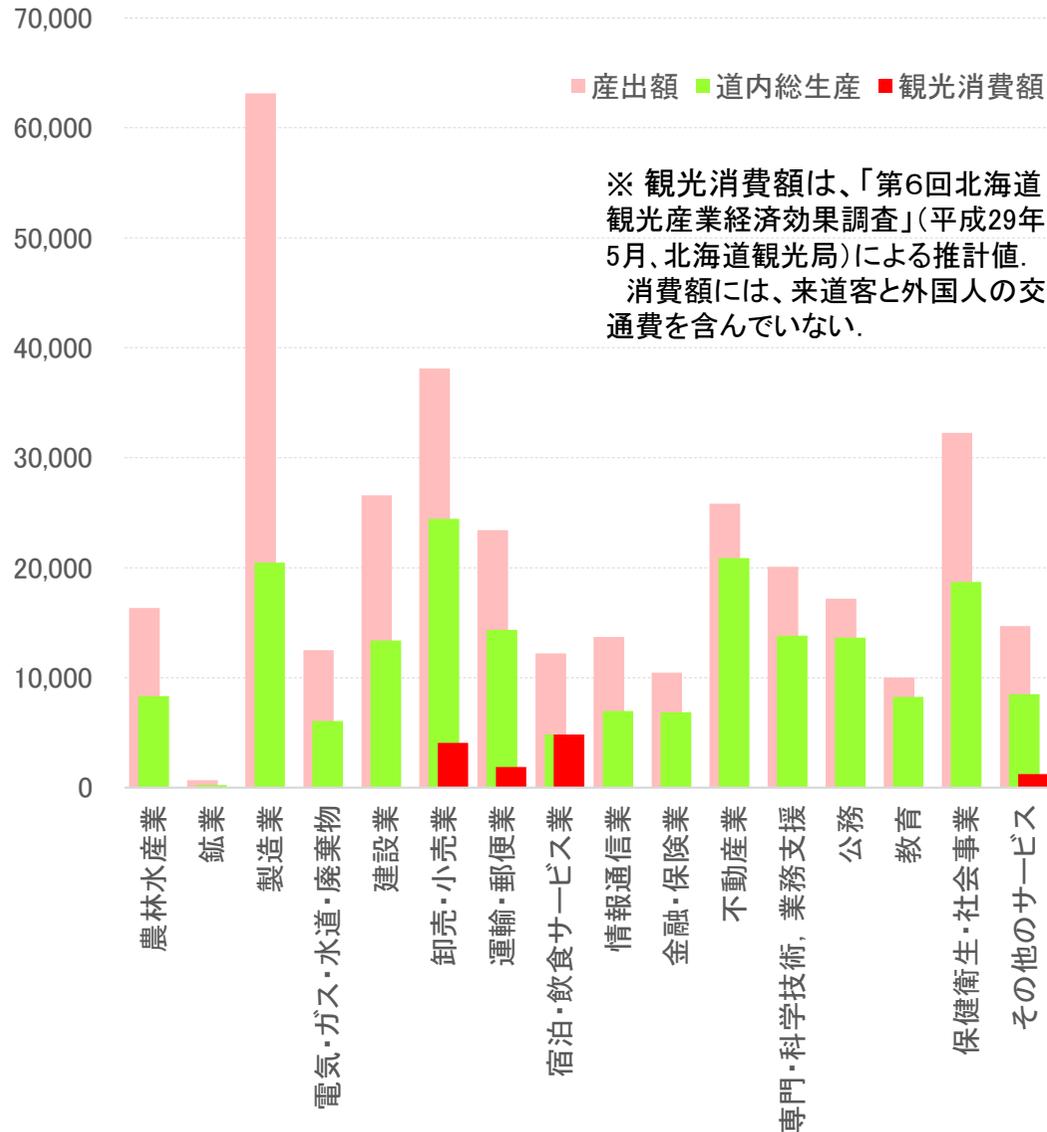
北海道観光の経済効果～観光消費額



北海道観光客のアンケート調査等(平成26年10月～27年9月)による観光消費額単価に、年間観光客数(平成27年度)を乗じた総観光消費額は、1兆4,298億円と推計されています。

観光消費額は、卸売・小売業産出額の11%、宿泊・飲食サービス産出額の40%に相当します。この比率から試算すると、GDPベースでは道内総生産19兆1千億円(平成27年度)の3.3%と推計されます。

(億円) 道内総生産と産出額(平成27年度)



■ サンプル数と観光消費額単価

(単位:円)

	サンプル数	消費総額	観光消費額単価
道民計	3,372	—	12,865
日帰り旅行	1,847	15,577,475	8,434
宿泊旅行	1,168	33,434,783	28,626
その他旅行	358	5,260,838	14,699
来道者	1,263	92,365,175	73,132
訪日外国人来道者	1,010	179,882,651	178,102
合計	5,646	326,520,923	—

■ 総観光消費額(推計)の内訳

(単位:億円)

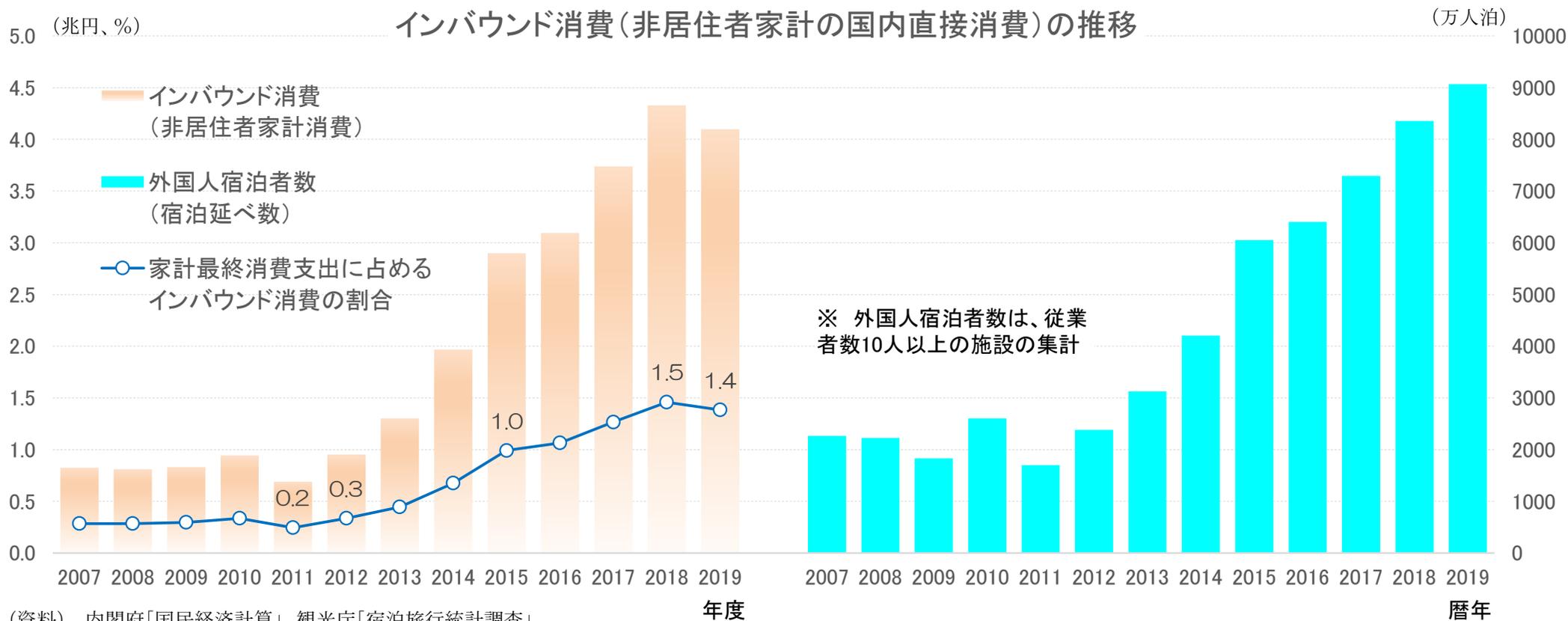
	道民	来道者	外国人	合計
旅行前支出	304			304
旅行後支出	19			19
旅行中支出	6,052	4,220	3,705	13,976
旅行会社収入	40			40
交通費	1,839	966	1,294	4,099
宿泊費	912	1,369	548	2,829
飲食費	926	719	361	2,005
土産・買い物代	1,686	798	1,279	3,763
入場料・施設利用料	612	222	87	920
その他の支出	38	147	136	320
観光消費額 合計	6,374	4,220	3,705	14,298

(資料) 北海道計財部「平成29年度道民経済計算」

(資料) 北海道経済部「第6回北海道観光産業経済効果調査」(平成29年5月)



- 訪日外国人旅行者の延べ宿泊者数は、2012年以降になって年々増加しており、2015年には前年比44%と高い伸びとなった。2016年以降は伸び率が低下したものの、2019年には、9,071万人泊(前年比8.5%増)となり、2012年(2,382万人泊)時に比べて約4倍の規模となった。
- 近年の訪日外客の急速な増加によって、国内における、いわゆる「インバウンド消費」の拡大が注目された。これを国民経済計算ベース(「非居住者家計の国内での直接購入」)で見ると、2012年度以降、前年比30%超の伸びが続き、中国人旅行者の「爆買い」が大きく話題となった14、15年度は、約50%の高い伸びとなった。その後も消費額は拡大し、2018年度には4兆3,300億円となり、2012年度(9,530億円)に比較し約4.5倍の規模となった。なお、国内家計最終消費支出との比率をみても、2012年度の0.3%から、2018年度には1.5%へと拡大した。

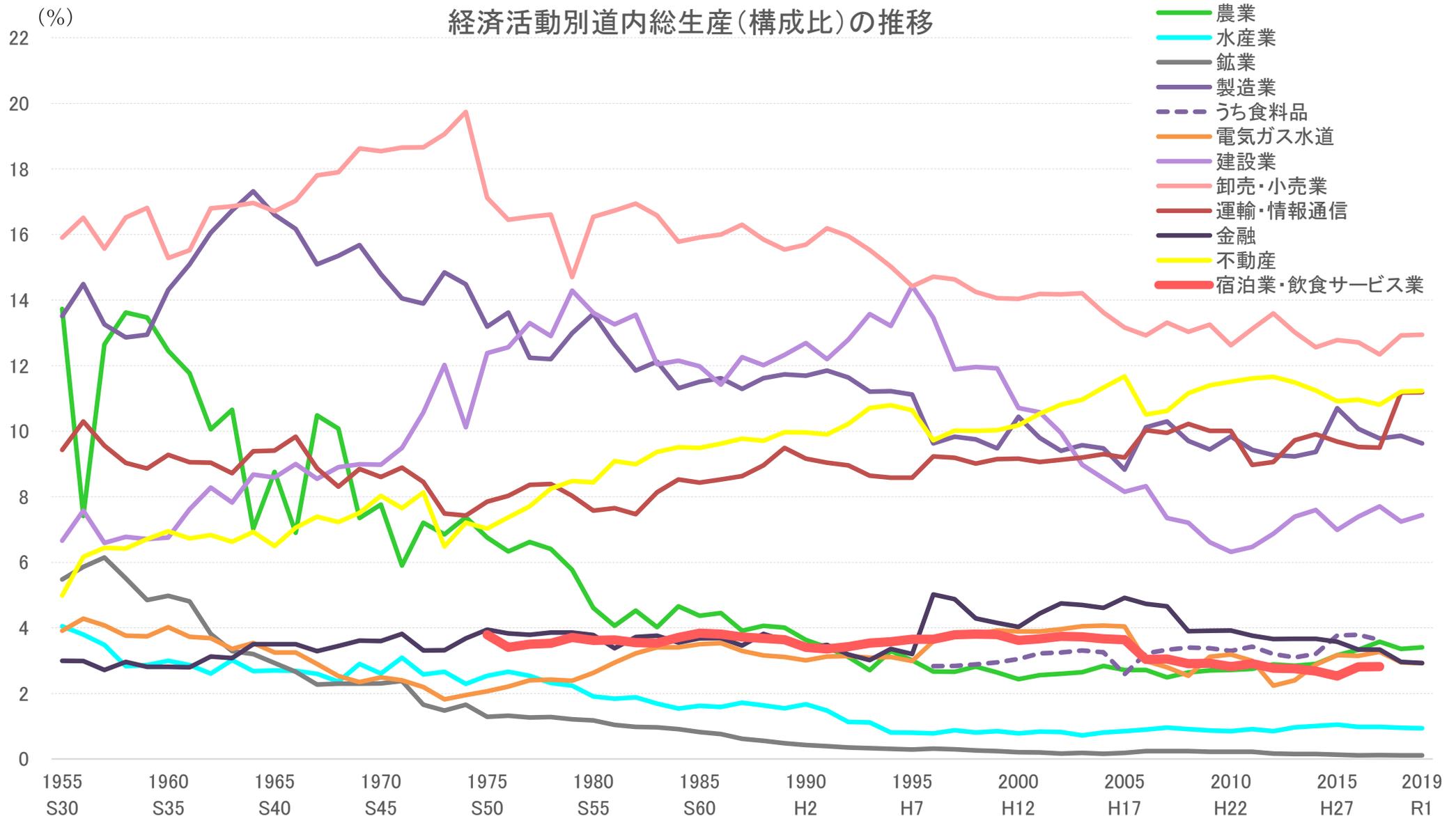


北海道観光の経済効果～宿泊・飲食業



北海道における観光消費額の3分の1を占める「宿泊業・飲食サービス業」は、道内総生産ベースで見ると、約3%を担っています。

近年は、ウエイトがやや低下しているものの、農業や食料品製造業の総生産とほぼ同じ規模となっています。



(資料) 北海道「道民経済計算」、内閣府「県民経済計算」

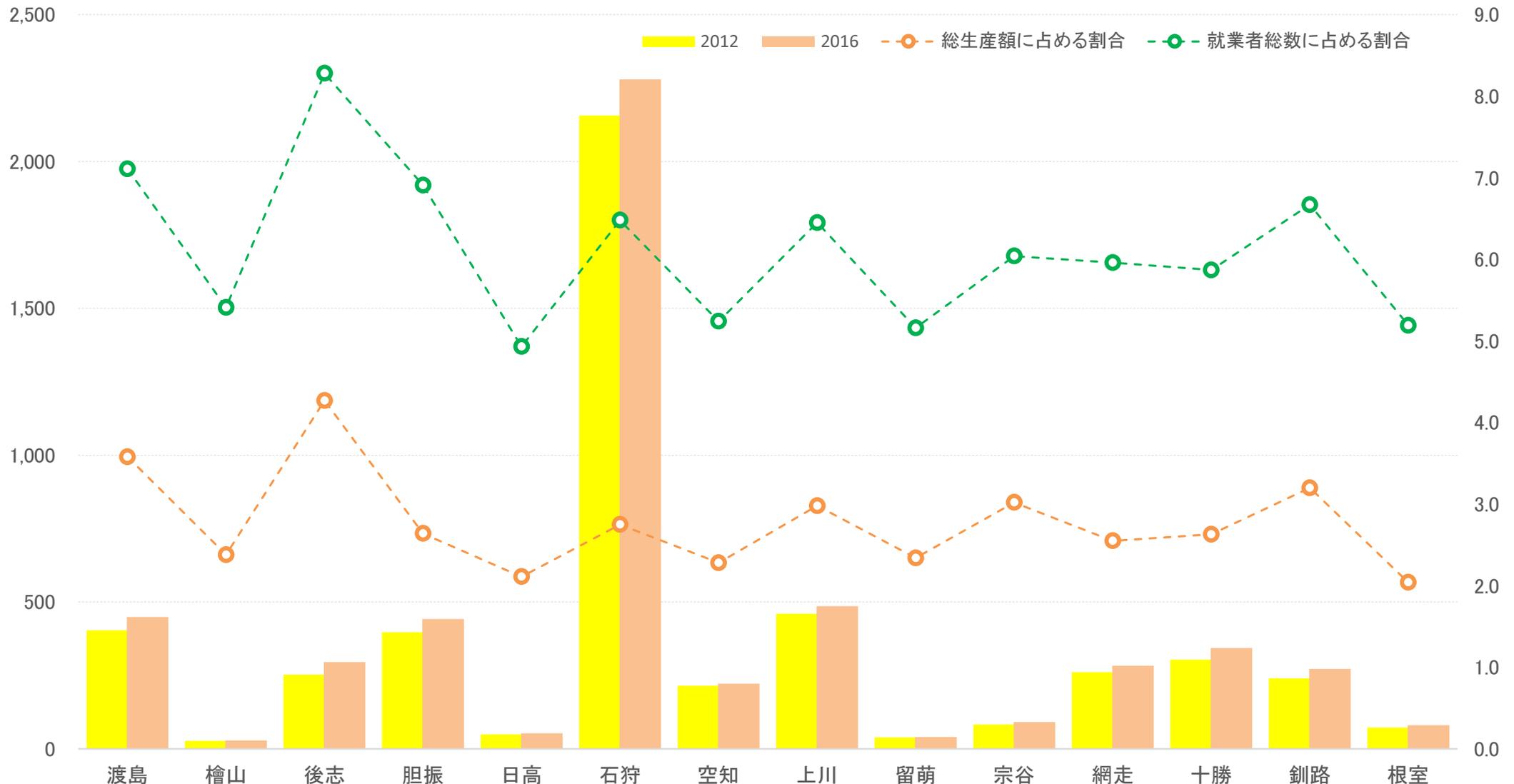
北海道観光の経済効果～宿泊・飲食業



宿泊業・飲食サービス業の総生産を地域別にみると、石狩が4割以上を占め、次いで、上川(9%)、渡島、胆振と続きます。

後志や渡島では、地域別総生産に占める割合が、それぞれ4.3%、3.6%と平均より高くなっています。また、就業者総数に占める割合は、いずれの地域も総生産に占める割合の2倍以上となっています。

宿泊・飲食サービス業の総生産額（名目）



(資料) 北海道「平成28年度(2016年度)道民経済計算年報」

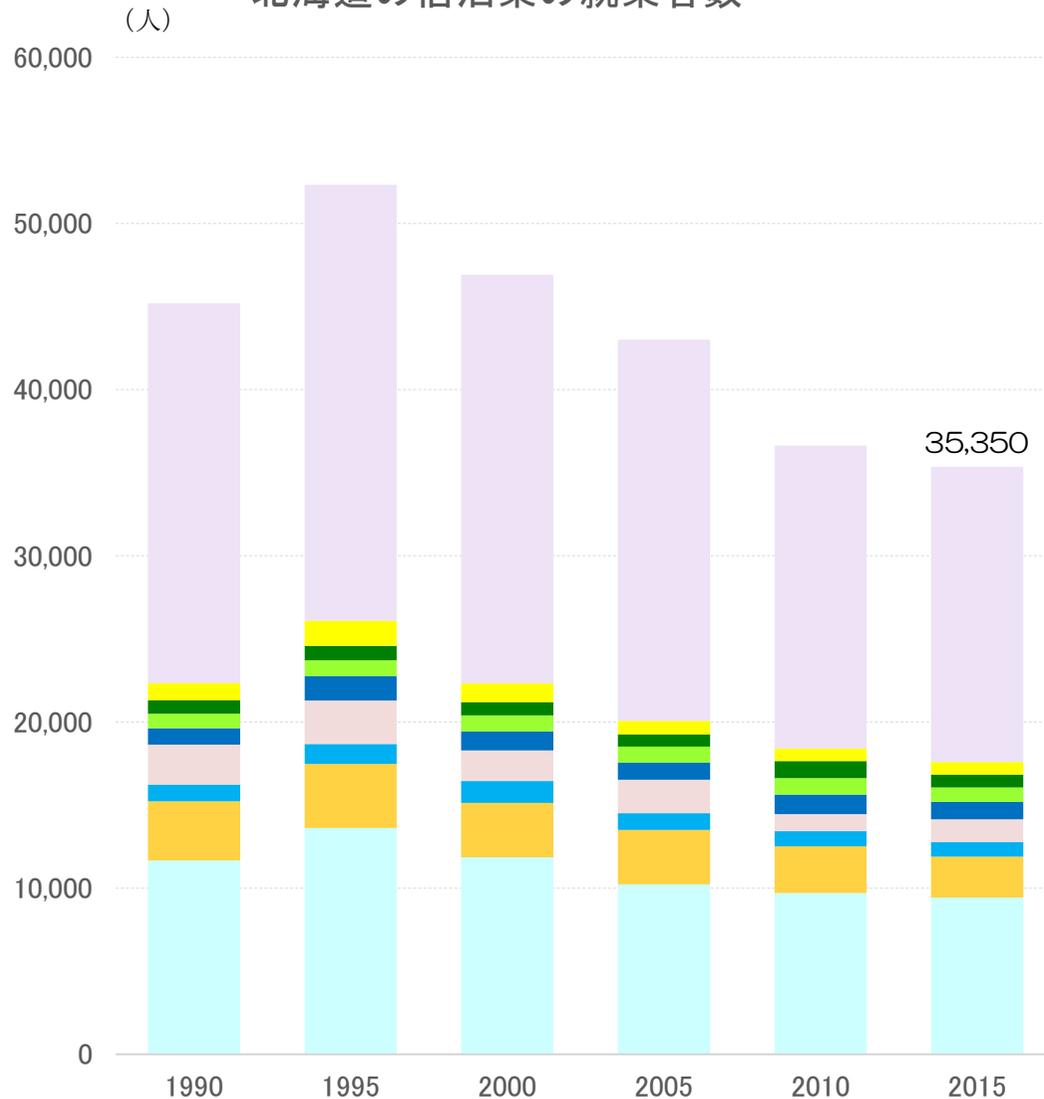
北海道観光の経済効果～宿泊・飲食業



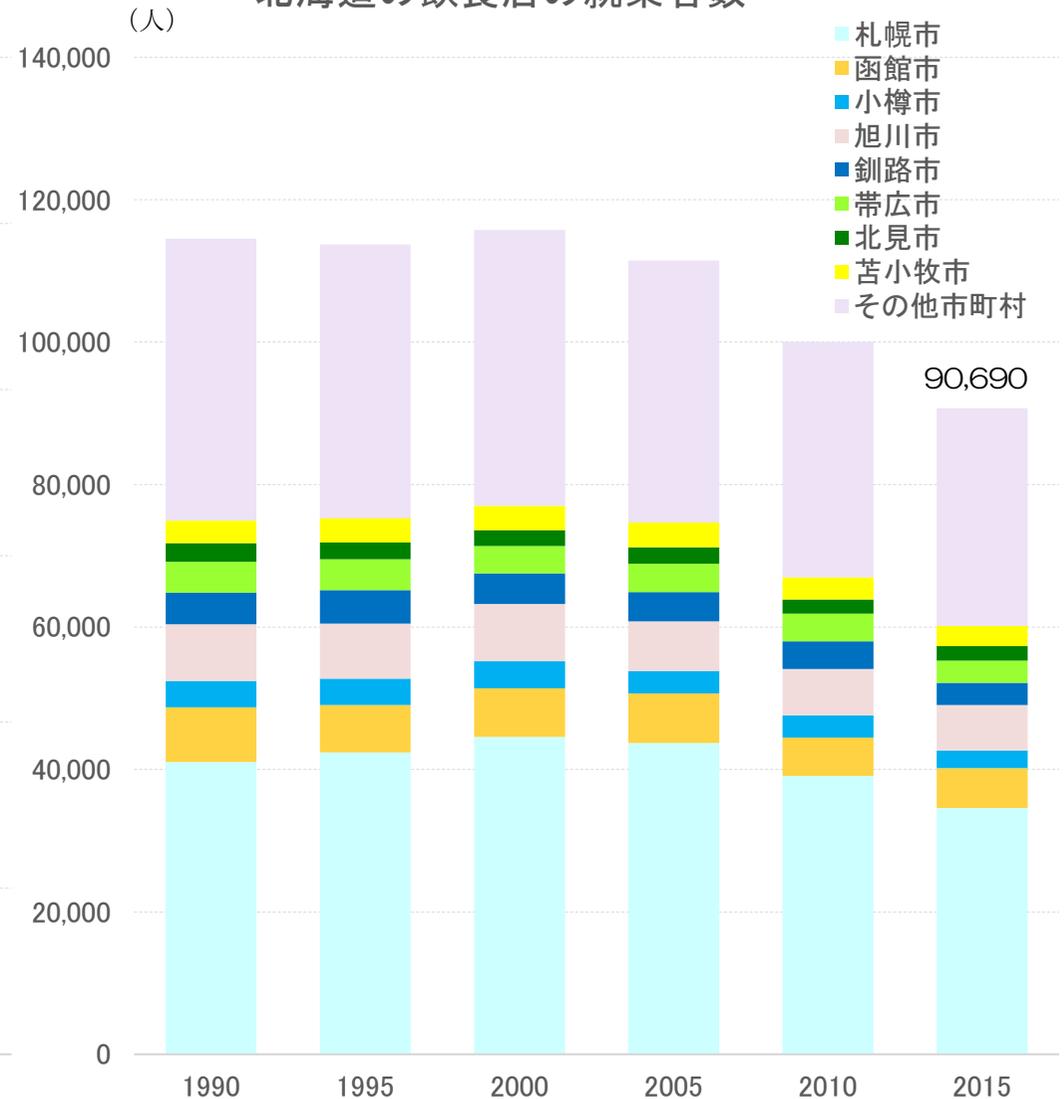
国勢調査による宿泊業の就業者数は、道内全体では、2000年以降で減少傾向となっています。札幌市の就業者シェアは26%で増加傾向にありますが、ニセコ地域や登別市などを含む「その他市町村」の割合も約5割で推移しています。

飲食サービス業の就業者は、札幌市のシェアが4割近くと高くなっています。

北海道の宿泊業の就業者数



北海道の飲食店の就業者数



(資料) 総務省「国勢調査」

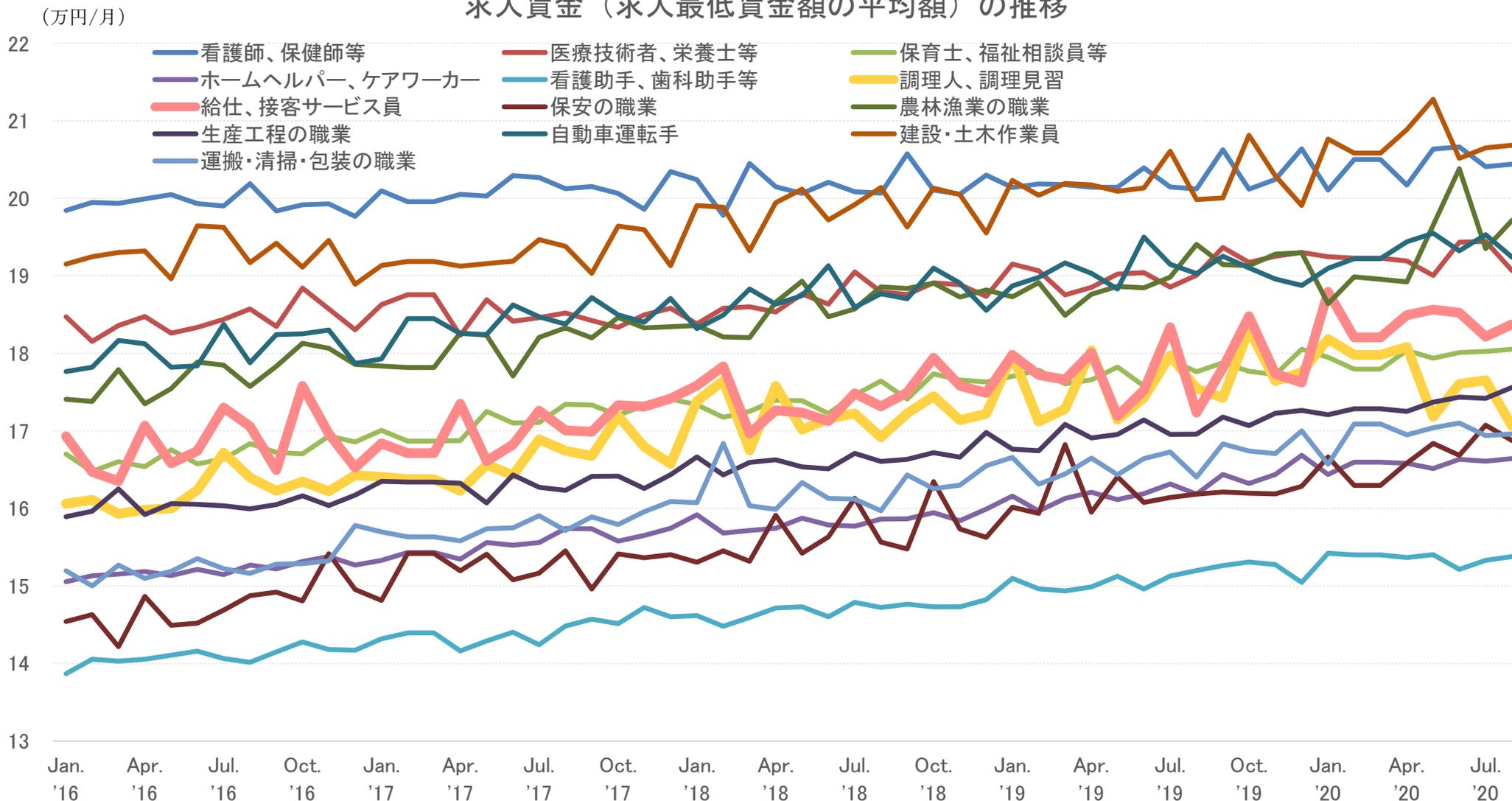
※「持ち帰り・配達飲食サービス」は含まない

北海道観光の経済効果～宿泊・飲食業



- 北海道の最低賃金は861円(2019年10月)で、2016年と比較して9.5%の上昇となりました。
- ほとんどの職種で求人賃金の上昇が続いています。**料理人**、**建設・土木作業員**、**保安**、**運搬・清掃**では、最低賃金の上昇率とほぼ同様の伸びとなっていますが、**社会福祉(ホームヘルパー、看護助手)**、**製造業(生産工程の職業)**、**給仕・接客サービス員**では6%程度の伸びにとどまっています。

求人賃金（求人最低賃金額の平均額）の推移



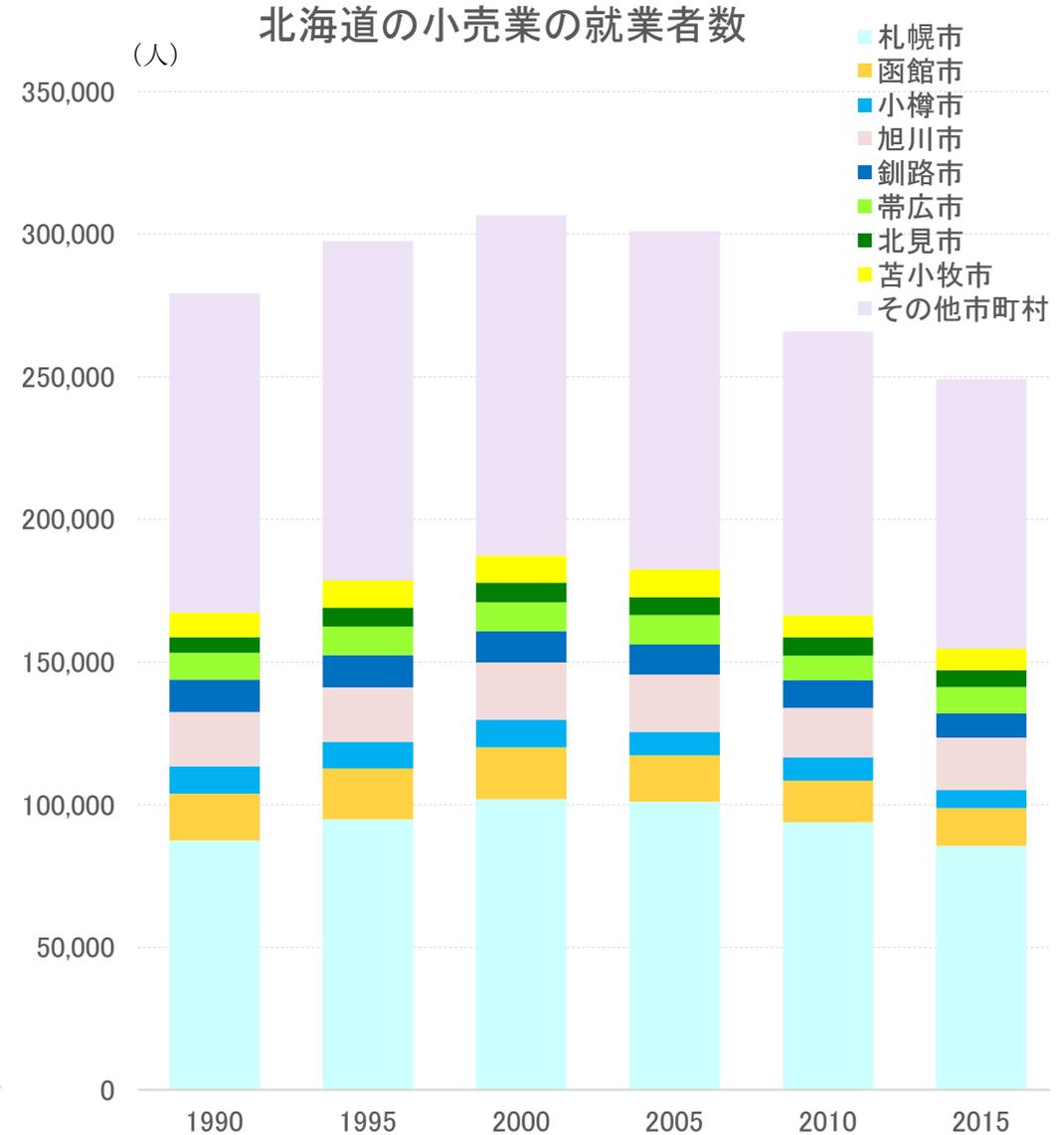
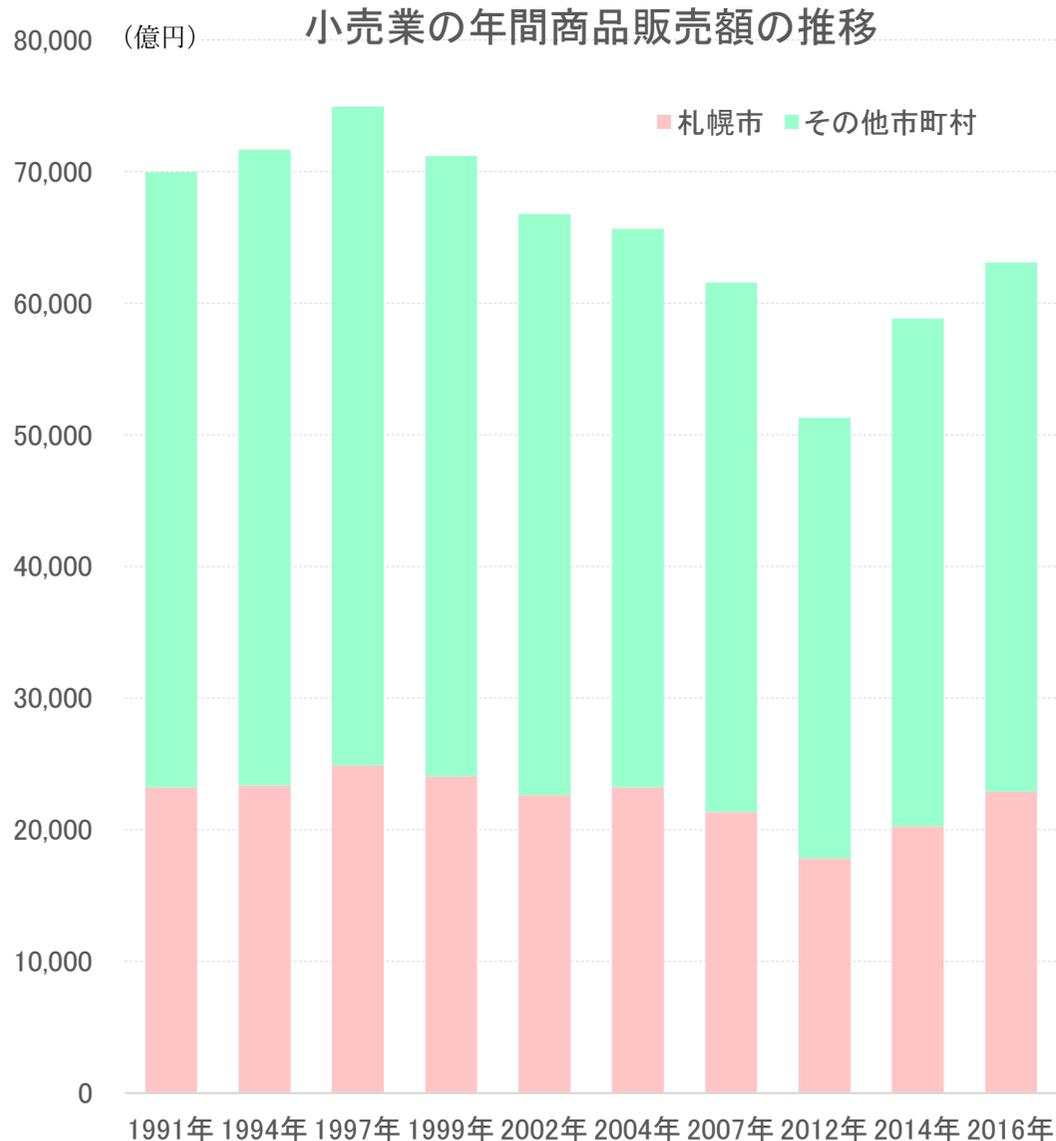
(資料) 厚生労働省北海道労働局 職種別、求人・求職・賃金状況

北海道観光の経済効果～小売業



北海道の小売業の年間販売額は、1999年以降、減少傾向で推移してきましたが、近年は増加傾向が続いています。札幌市の販売金額の割合は36%で、シェアも微増傾向にあります。

国勢調査による就業者数では、2005年以降は減少傾向で推移しています。なお、就業者数の札幌市のシェアは34%となっています。



(資料) 経済産業省「商業統計調査」

(資料) 総務省「国勢調査」

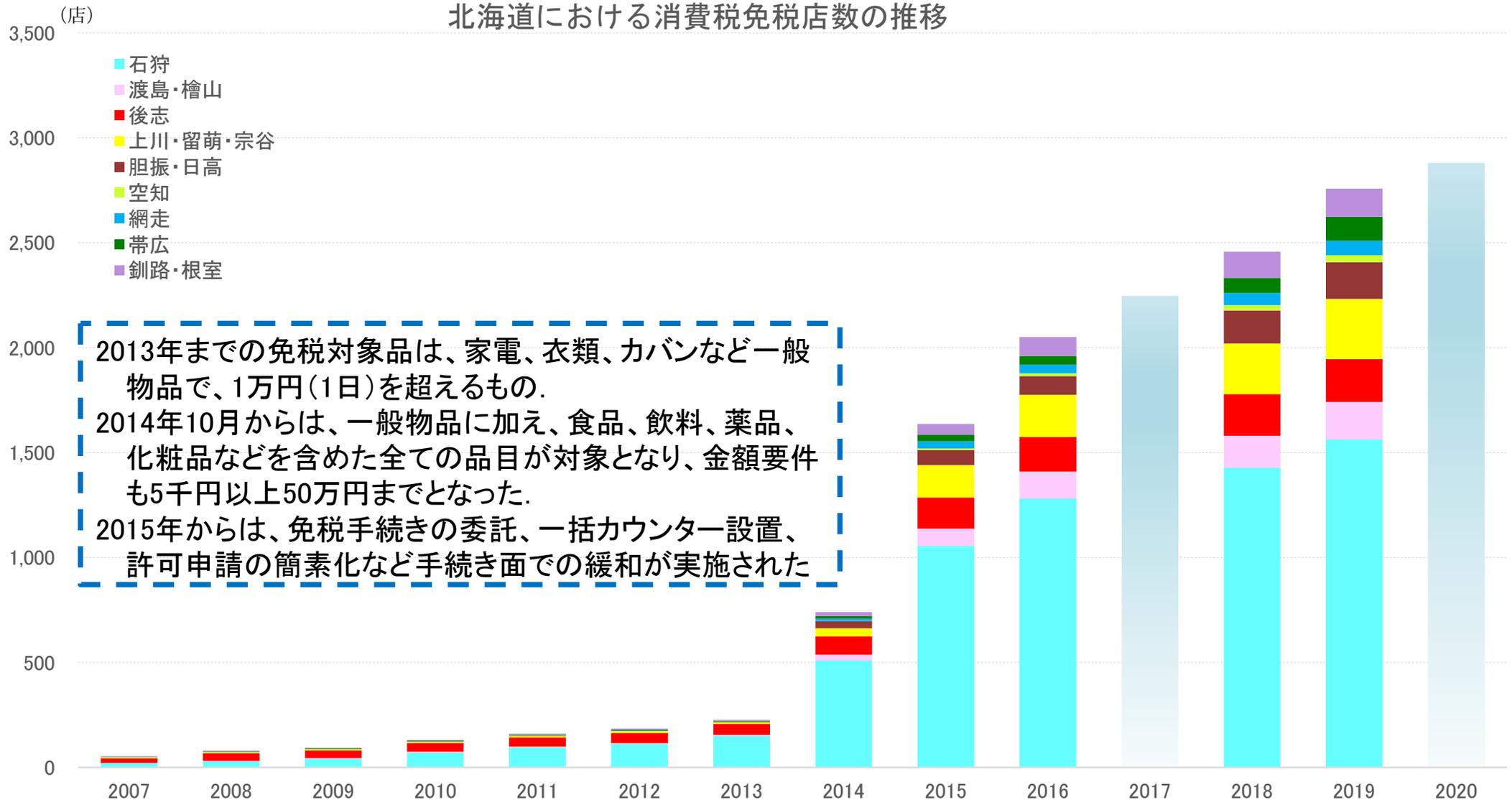
※「機械器具(自動車等)小売業」は含まない



中国を中心とした外国人観光客の増加を背景に、北海道でも免税店数は、2013年の227店から、2014年に740店、2015年には1,637店と急速に増加しました。その後は、札幌以外の地域でも免税店が拡大し、2020年3月時点では2,880店となりました。

地域別の店舗数では、札幌市を含む石狩が、約6割を占めています(2019年)。

北海道における消費税免税店数の推移



(資料) 札幌国税局資料及び観光庁資料を基に作成

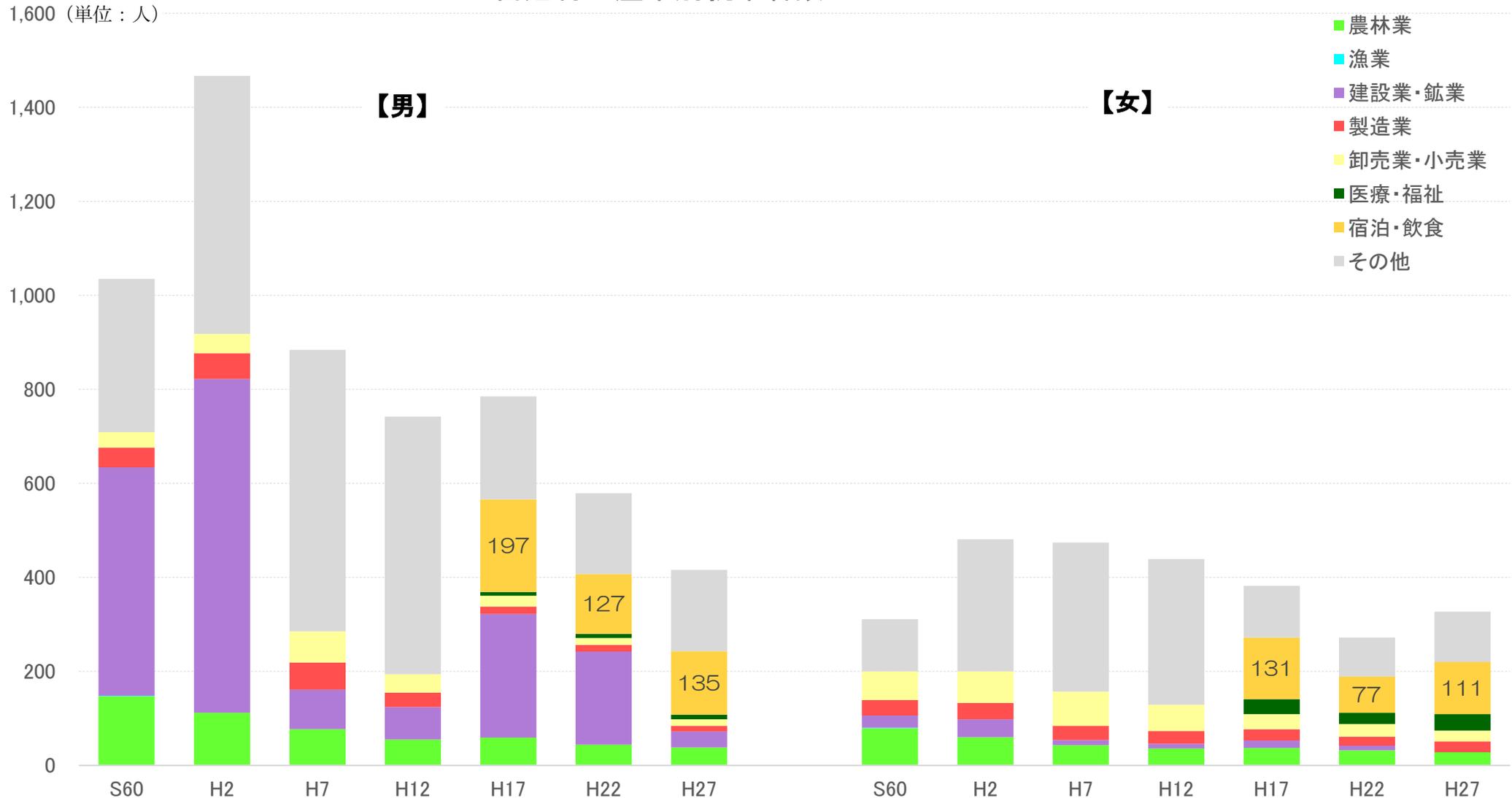
※ 2015年までは各年末時点、2016年は10月1日、'17年～'18年は4月1日、'20年は3月31日時点



占冠村では、トナムリゾート開発に関連するスキー場やホテルの建設等に伴って、建設関連の雇用が拡大しましたが、施設が完成した後は、男の就業者数が大きく減少しました。

星野リゾートトナムに変わって、宿泊・飲食サービス業の就業者が一定の割合で推移しているものの、就業者数は全体として減少傾向にあります。

占冠村の産業別就業者数

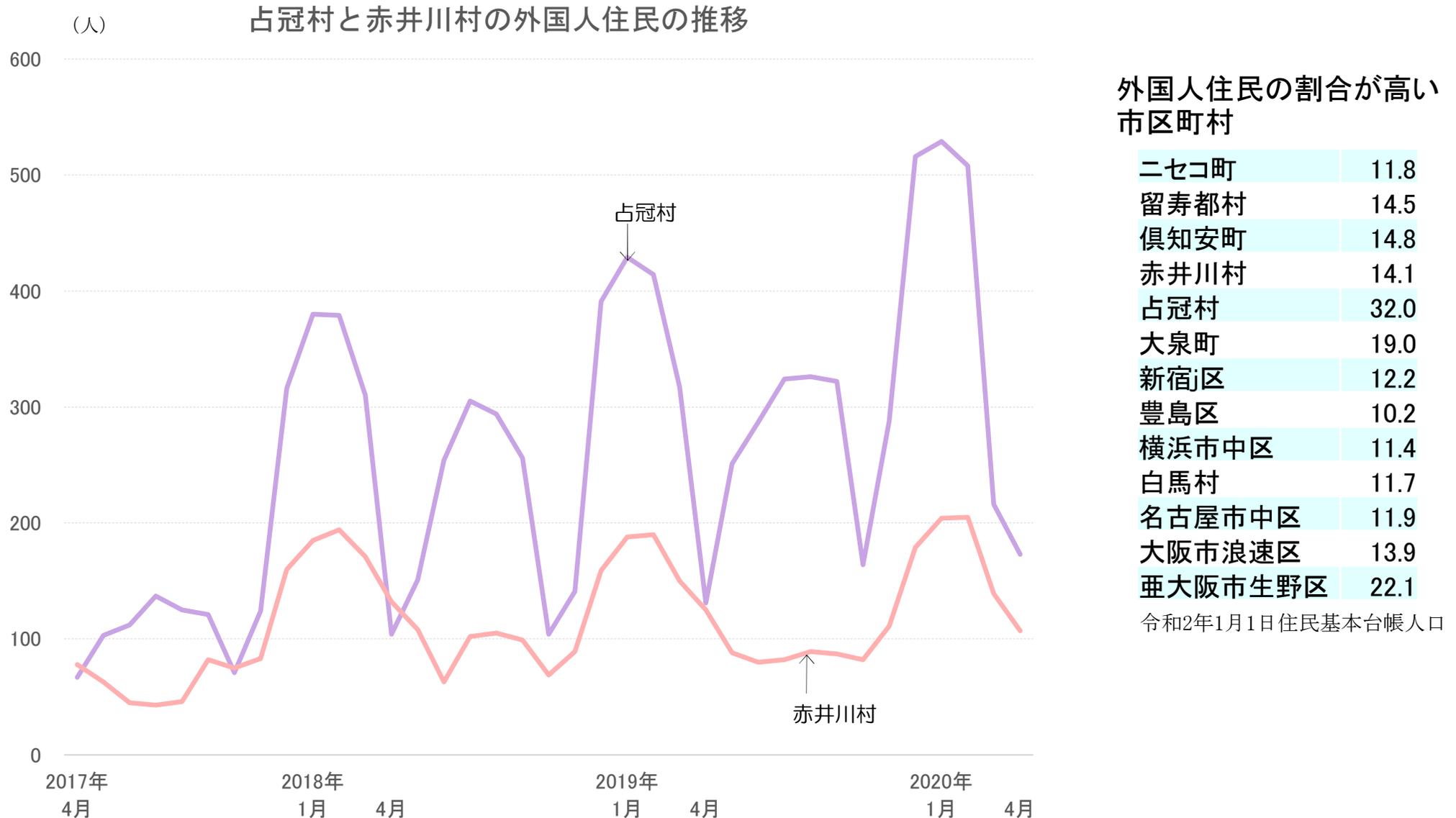


(資料) 総務省「国勢調査」



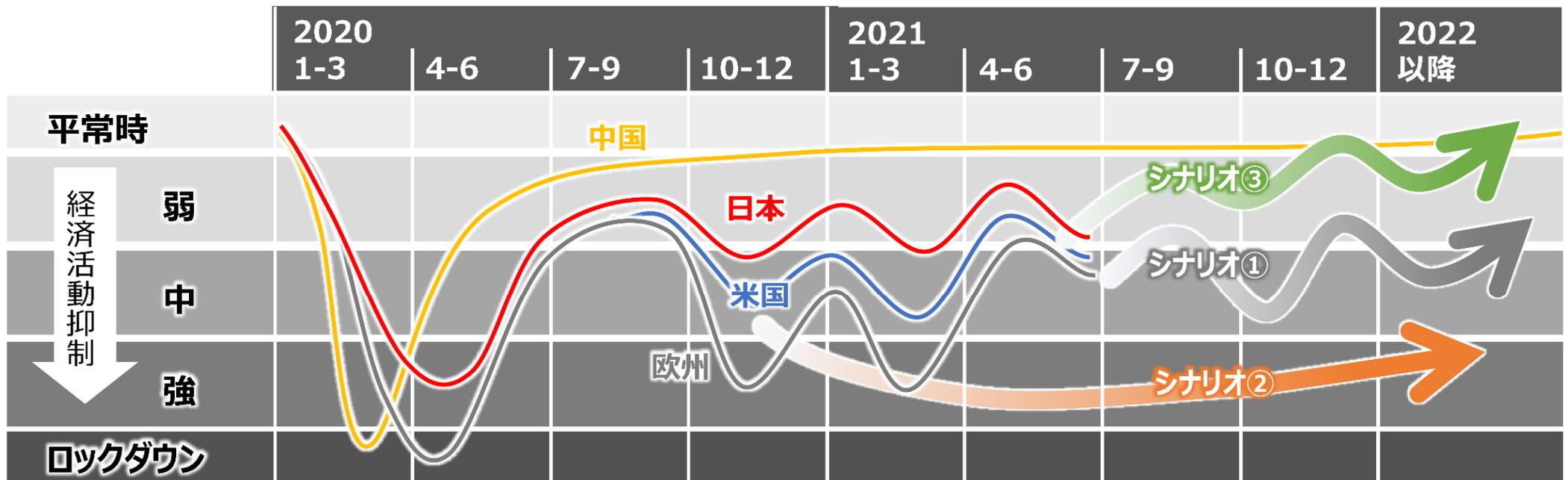
占冠村の外国人比率は、全国の市区町村で最も高くなっています。星野リゾートトマムでは、2017年に欧米客に人気が高い「クラブメッド北海道トマム」が開業し、スキーインストラクターや接客係などに外国人従業員を多く採用しているようです。

このほか、外国人観光客が増加している冬季リゾートでも、外国人住民の割合が高くなっています。





新型コロナウイルス感染拡大のペースや治療法の普及等が不透明な下では、2021年度以降の内外経済の見通しは幅をもって見るしかありません。イギリスでは既に新型コロナワクチンの接種が開始されていますので、楽観的な見通しとして、ワクチン等の普及により重症化・死亡リスクの低下を前提に、21年の半ば以降から、先進国を中心に経済活動への抑制が緩和されていくというシナリオがあります。



シナリオ① (標準)

- 冬場は感染リスクの高まりから経済活動の抑制度を強化、欧州はロックダウンに近い抑制度に
- 21年春以降も、感染リスクの高い地域や活動への重点規制と緩和を繰り返す
- 22年にかけて一定の防疫措置を継続

シナリオ② (下振れ)

- 感染拡大ペースの加速や重症者比率の上昇
- シナリオ①を上回る経済活動の抑制度が強い状況が継続

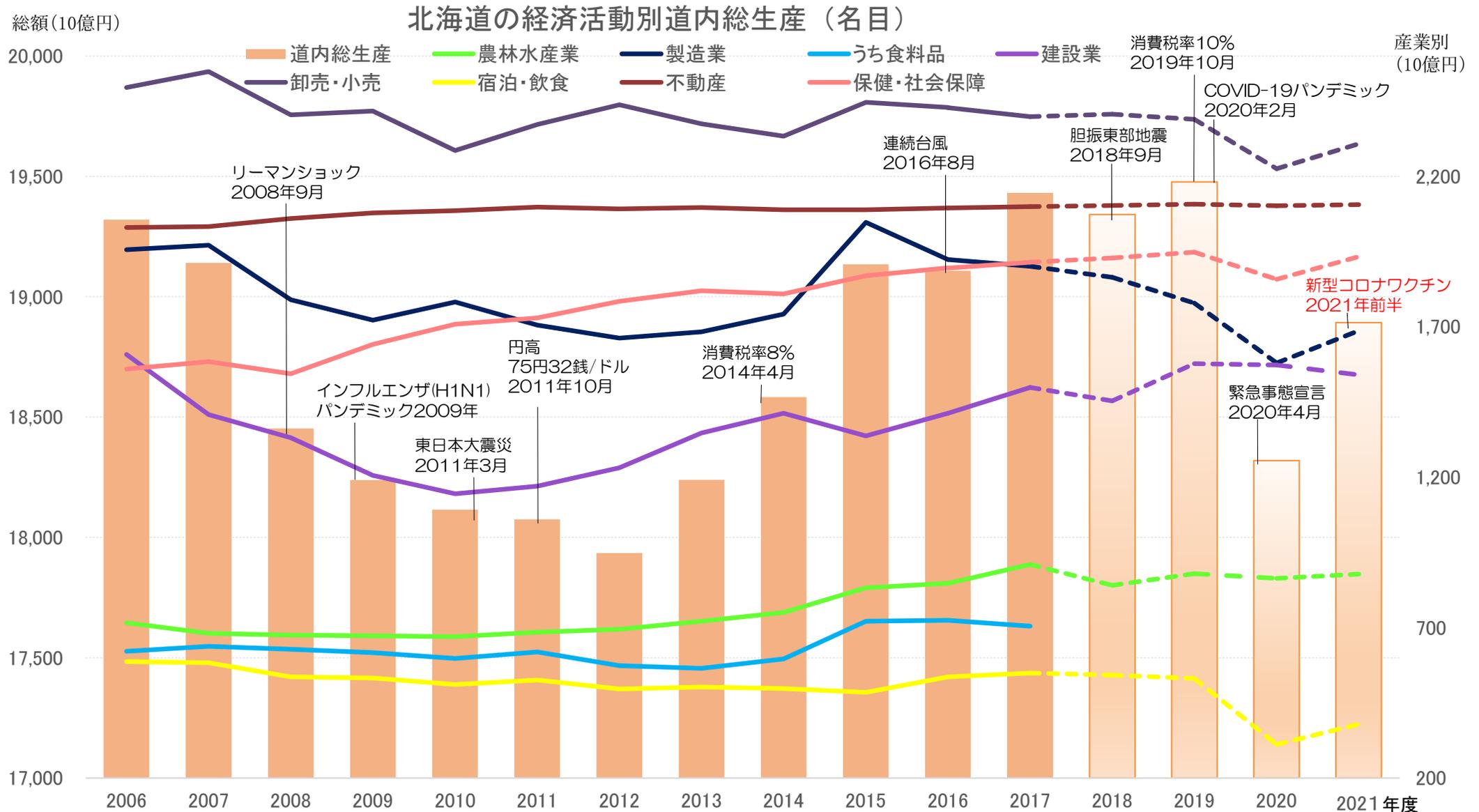
シナリオ③ (上振れ)

- 重症化を防ぐ治療法の確立、ワクチンや特効薬の一般普及により、重症化・死亡リスクが低下
- 21年半ば以降、先進国を中心に経済活動への制約を緩和、22年以降に平常化へ

ポストコロナ時代の北海道観光～2021年度北海道経済の見通し



北洋銀行の予測によると、2021年度の日本経済は、内需では個人消費の持ち直しや、設備投資、公共投資が押し上げ要因となり、外需も緩やかに増加することからプラス成長を見込んでいます。これに伴い、北海道経済も、個人消費の落ち込みからの反動、財貨・サービスの移出入の改善によって、前年度を上回ると予測しています。(2020年度△5.9%、2021年度+3.1%。いずれも名目。)



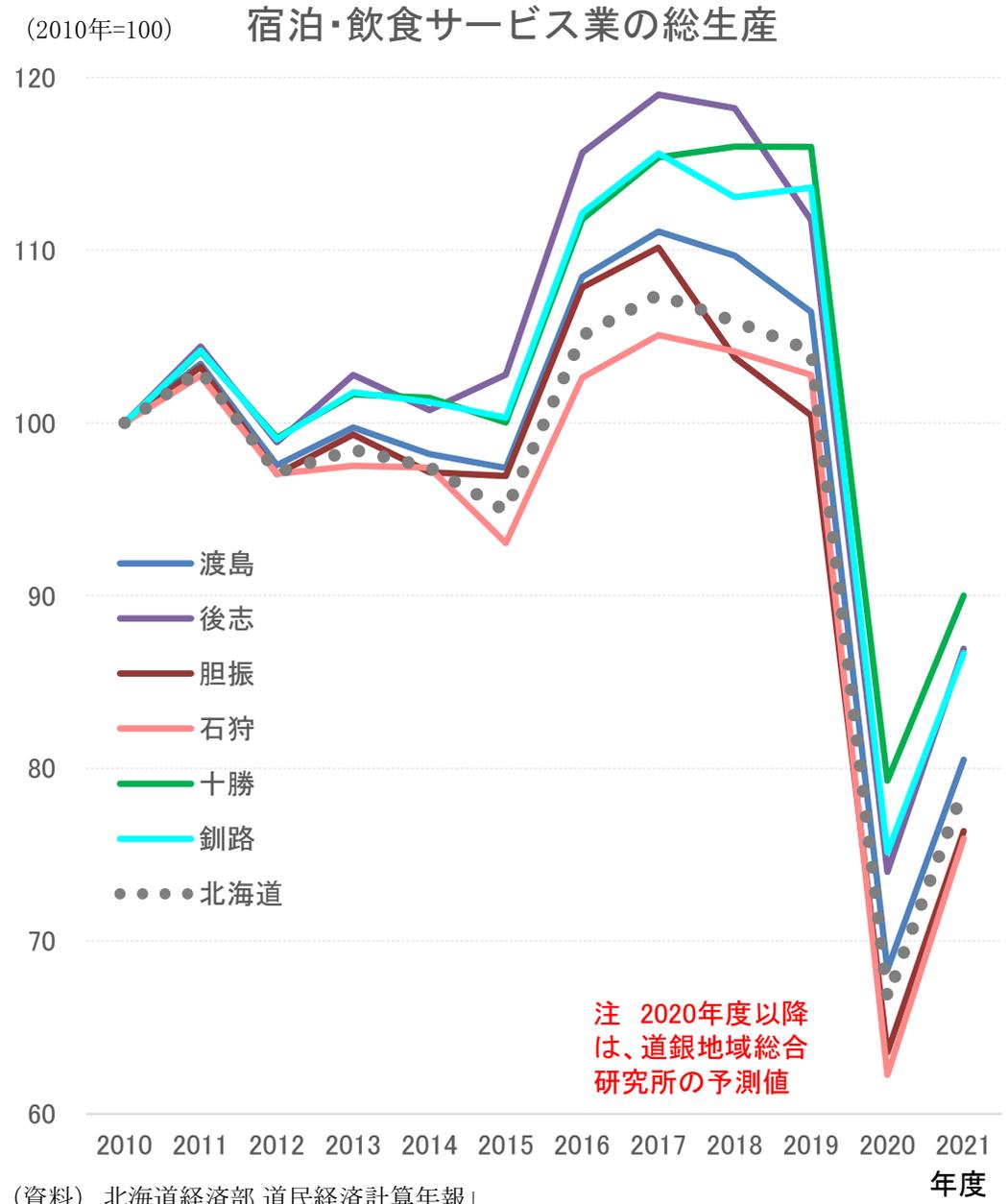
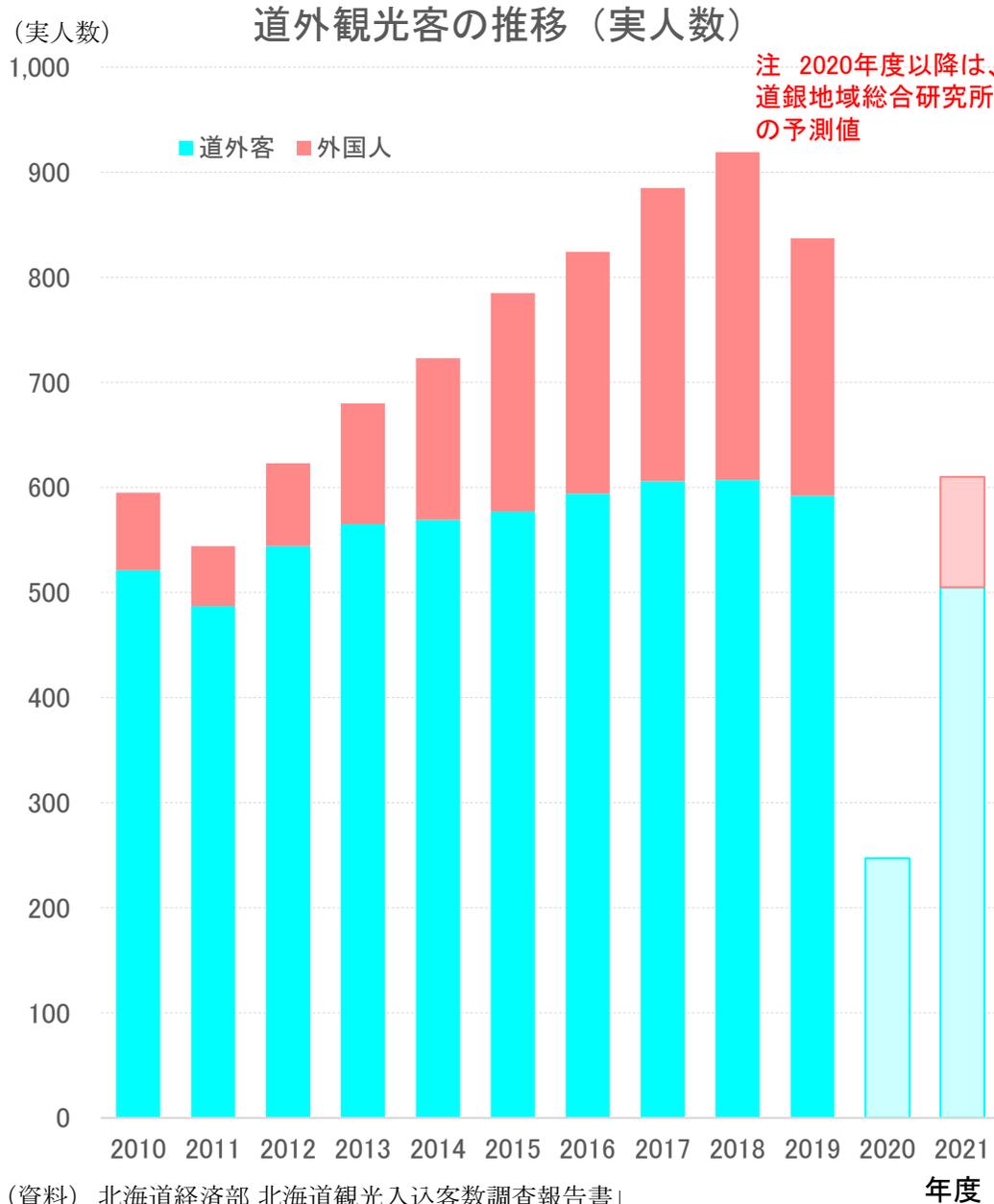
(資料) 北海道経済部「道民経済計算」(2020年3月)、北洋銀行「2021年度北海道経済の見通し」(2020年12月8日)

※ '18,'19年度は実績見込み、'20年度以降は見通し

ポストコロナ時代の北海道観光～インバウンドの見通し



新型コロナワクチンの普及や東京五輪の開催による旅行マインドの改善などが期待され、サービス関連の総生産も前年を上回ると予測されていますが、ワクチンの広範な接種には長時間を要すると想定されることから、道外客、海外客とも以前の水準に戻ることは難しいと見込まれています。





【北海道観光が将来的にめざす姿】

「オンリーワン！自然・食・文化を活かした観光地」、「いつでも！どこでも！何度でも！」、
「誰もが安全・安心・快適に滞在」、「持続的な観光関連産業の発展」

【施策展開の方向性】

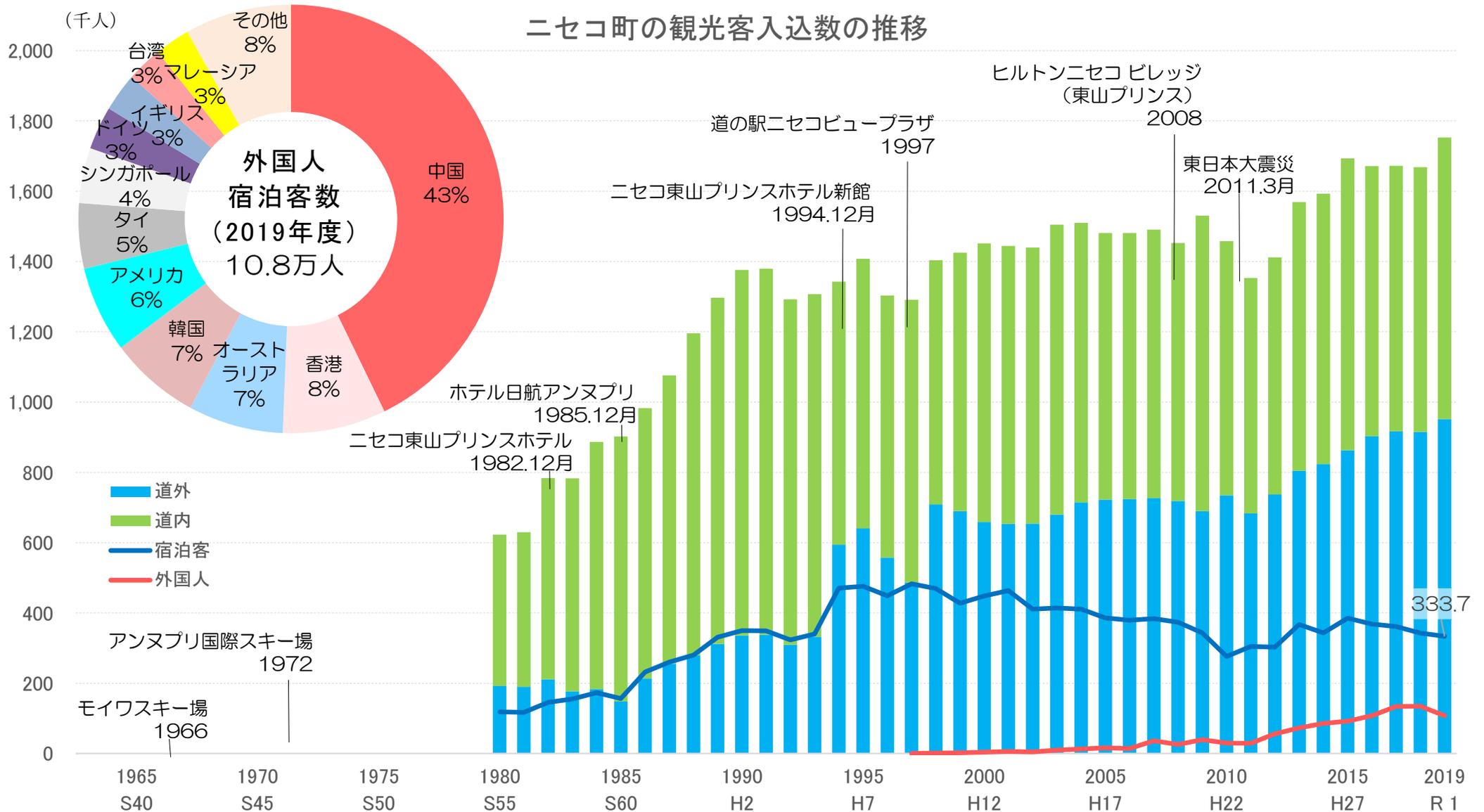
- ① **クリーン北海道** → 「安全・安心」で選ばれる観光地づくり
 - ・ 北海道スタイル、業種別感染症対策ガイドラインの徹底などによる安全・安心の提供
 - ・ 広大な自然、密になりにくいアウトドア環境など本道の価値・優位性を再評価
 - ・ 積極的な情報発信
- ② **量×質の追求** → 満足度向上と連動した消費単価の向上
 - ・ 人口減少社会における道内観光の高付加価値化
 - ・ 自然環境・食など本道の観光資源の磨き上げブランド力強化による新規誘客・リピーターの獲得
 - ・ 富裕層向け商品・サービスの充実による質の向上
 - ・ AI、IoT等先端技術導入による観光産業の収益構造の改善
- ③ **旅行者比率のリバランス** → 感染症の状況に応じた誘致対象の最適化
 - ・ 道民の道内再発見、国内旅行の需要喚起
 - ・ 渡航制限解除等を見据えた海外需要の獲得
 - ・ 欧米等新規市場の開拓による市場拡大
- ④ **新しい旅行スタイルの推進** → 新たな北海道観光価値の創出
 - ・ 北海道型ワーケーション等の創造による滞在型観光の推進
 - ・ ATWSを契機に本道の自然・文化等の特性を活かしたアドベンチャー・トラベルの造成・発信
 - ・ MICE・IRなど新たなインバウンドの取込方策の検討
- ⑤ **観光インフラの強靱化** → 地域における観光インフラの充実
 - ・ 広域観光の拠点としての道内空港の利活用
 - ・ 観光産業を支える人材の確保・育成
 - ・ 災害時等に観光客の安全・安心に資する基盤の強化

観光地の変遷 ○ ニセコ（ニセコ町）



ニセコ町は、アンヌプリ、東山等のスキー場が開設され、1975年以降のスキーブームには、東京など全国からスキー客が訪れるようになりました。2000年代に入って、道の駅や夏季のアクティビティ等を楽しむ観光客が増加し、冬の入込客数を上回るようになりました。近年は、海外からスノーリゾートの魅力が注目され、東アジアや豪州の観光客が増加し、夏冬拮抗した入込となっています。

ニセコ町の観光客入込数の推移

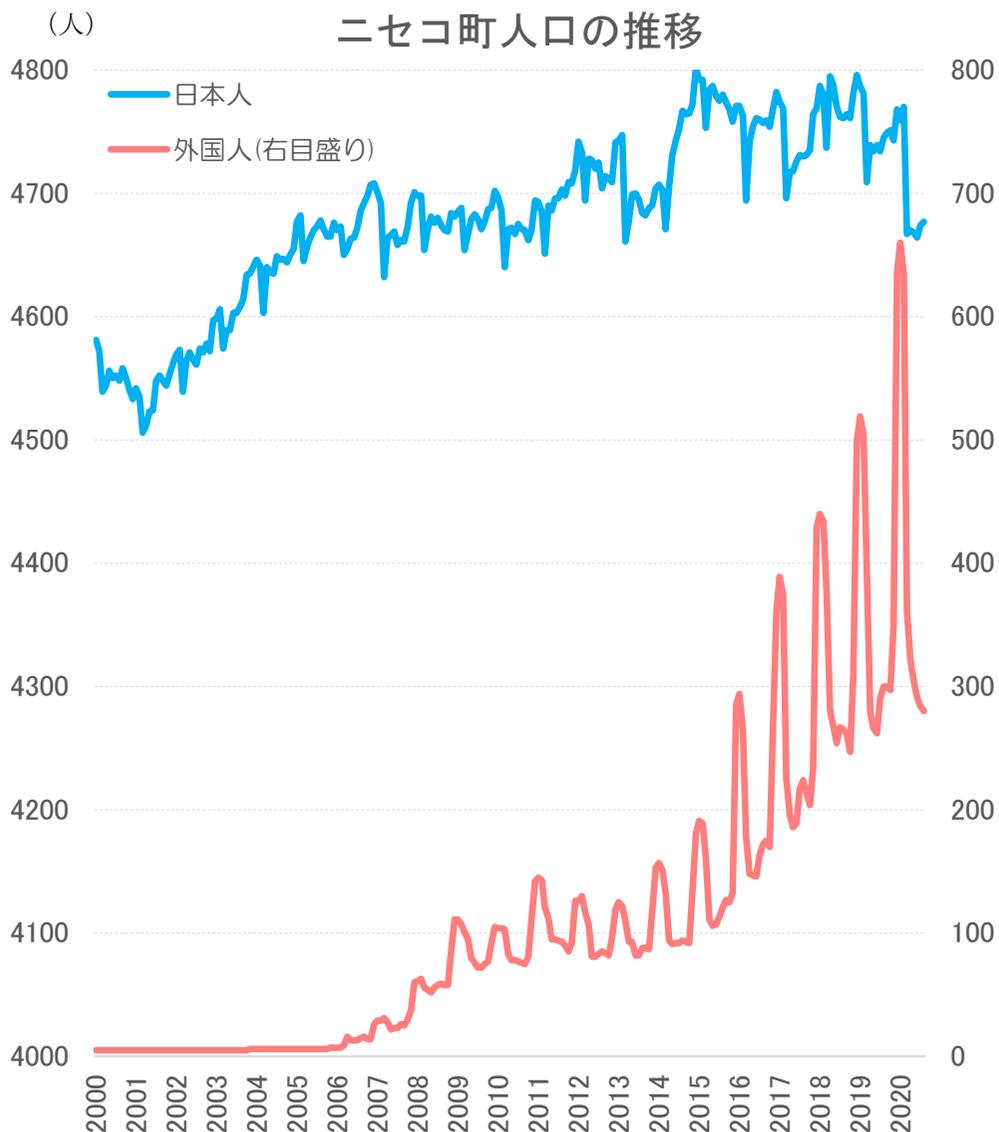


(資料) 北海道経済部「北海道観光入込客数調査報告書」



ニセコ町では、冬季の外国人観光客の増加に伴い、観光関係の仕事に就く外国人住民も増えてきています。近年では、年間を通じて町内で暮らす外国人も多くなっています。

このため、2011年に、「北海道インターナショナルスクールニセコ校」を開設しました。これは、国籍を問わず、就学前から6年生まで、西洋スタイルの教育(授業は英語)を提供する、民間学校です。



(資料) ニセコ町「住民基本台帳」

■ 多文化共生のまちづくり



- ニセコ町では、海外からの観光投資と定住外国人の増加が進んでいます。これに伴い、外国人による教育環境の充実を望む声があがっていました。
- 一方、町は、「小さな世界都市」を目指し、働きやすく定住しやすい環境の提供、ニセコ小中学校の生徒を中心とした町民にさまざまな文化的刺激を提供する、国際交流の新たな展開を創造していく等を、まちづくり方針として掲げています。
- このような背景の下、旧ニセコ幼稚園舎を国際交流施設として改修するとともに、施設をHISへ無償貸与することとし、2012年1月に「HIS ニセコ校」を開校しました。
- 2018年では、Mp1(5～7歳)11人、Mp3(8～11歳)6人、EY(3～4歳)10人の3クラスで授業が行われています。

(出典) ニセコ町ホームページ

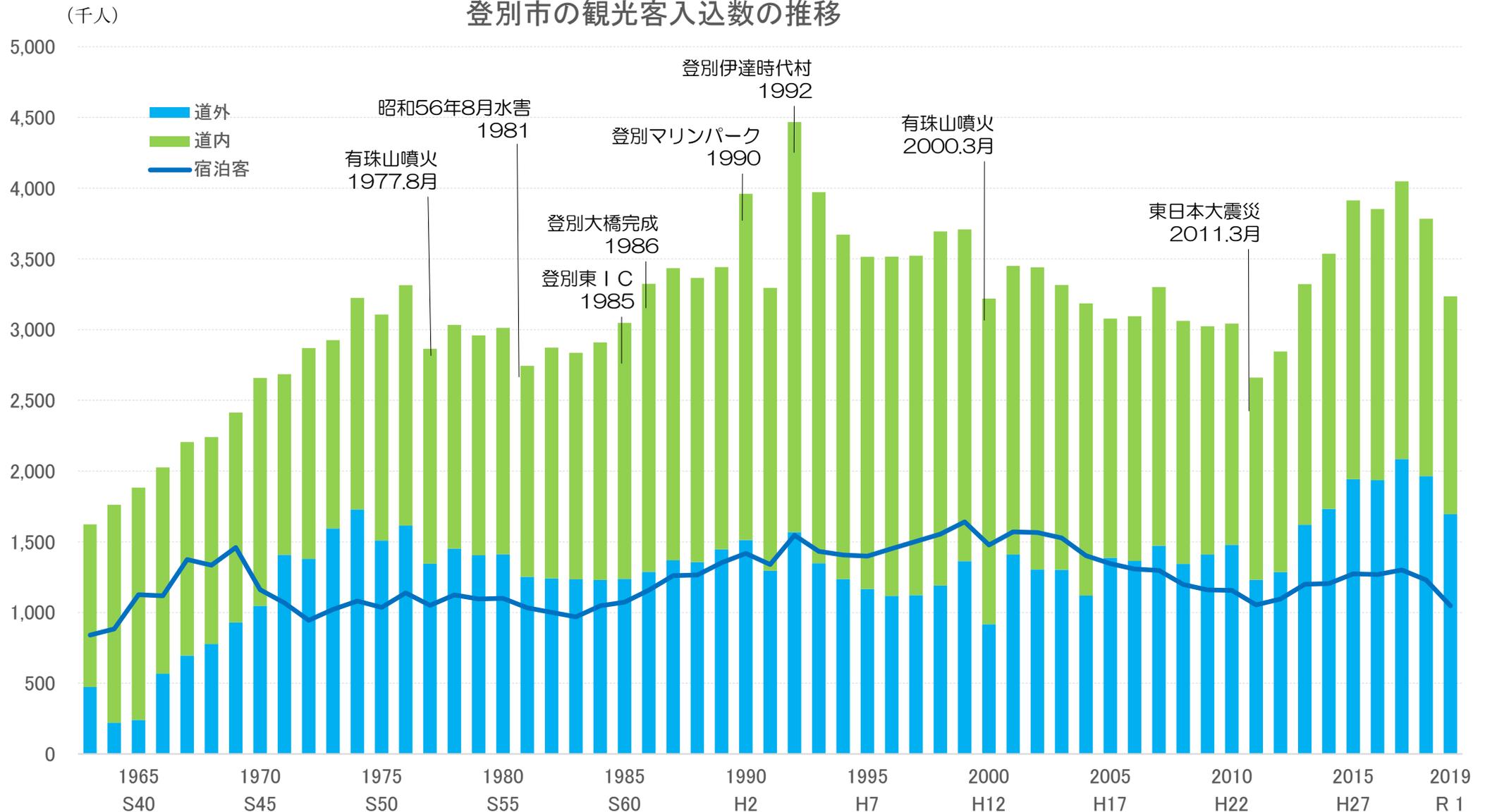
観光地の変遷 ○ 登別温泉（登別市）



登別市は、太平洋に面し夏冬の温度差が少ない比較的温かな都市です。豊富な湯量を背景に登別温泉、カルルス温泉を中心とした観光産業が盛んです。

観光入込客数は、2000年の有珠山噴火以降は減少傾向で推移していましたが、2012年度以降はインバウンドの増加により、宿泊客数も増加してきました。

登別市の観光客入込数の推移



(資料) 北海道経済部「北海道観光入込客数調査報告書」



- ・ 登別温泉は、1857(安政4)年に近江商人の岡田半兵衛が、硫黄採取を始めるとともに現地に共同浴場を開設したのが始まりといわれています。1845(弘化2)年には「北海道」の名付け親である松浦武四郎が訪れ、「蝦夷日誌」の中で大自然に囲まれた秘境ともいえる登別に効能の高い温泉がある事を紹介しています。
- ・ 1881(明治14)年には、滝本金蔵が私費で紅葉谷の上を通る新道を開削し、妻・佐多の皮膚病治療のため湯治をはじめました。これが「第一滝本館」のルーツになります。
- ・ 今日の登別温泉には10数軒の宿泊施設が立地しており、そのほとんどが旅館タイプとなっていますが、200室以上の5軒の大旅館で宿泊者収容力の7割以上を占めています。
- ・ 登別温泉は、10数年前頃までは、夏・秋のハイシーズンに道外からの周遊観光客を大量に受け入れており、冬季は主に札幌圏からの道内客を低価格で受け入れるパターンが大宗でした。
- ・ 有珠山噴火以降、宿泊客の減少が続いてきたことから、大型旅館でも、ゆとりある客室で滞在型の個人旅行客を受け入れる取組を進めています。

2005年の主要宿泊施設	客室数	収容力
ホテルまほろば	427室	1,860人
第一滝本館	397室	1,666人
登別プリンスホテル石水亭・紅葉	393室	1,682人
祝いの宿・登別グランドホテル	261室	1,000人
登別万世閣	200室	900人
名湯の宿・パークホテル雅亭	137室	594人
ホテルゆもと登別	104室	382人
観光ホテル滝乃家	61室	180人
旅亭花ゆら	58室	259人
滝本イン	47室	94人
御やど清水屋	43室	120人
温泉オーベルジュゆふらん	32室	120人
滝乃家別館玉乃湯	24室	126人
花鐘亭はなや	22室	79人
ユースホステル金福 ※2006年3月閉館	8室	18人

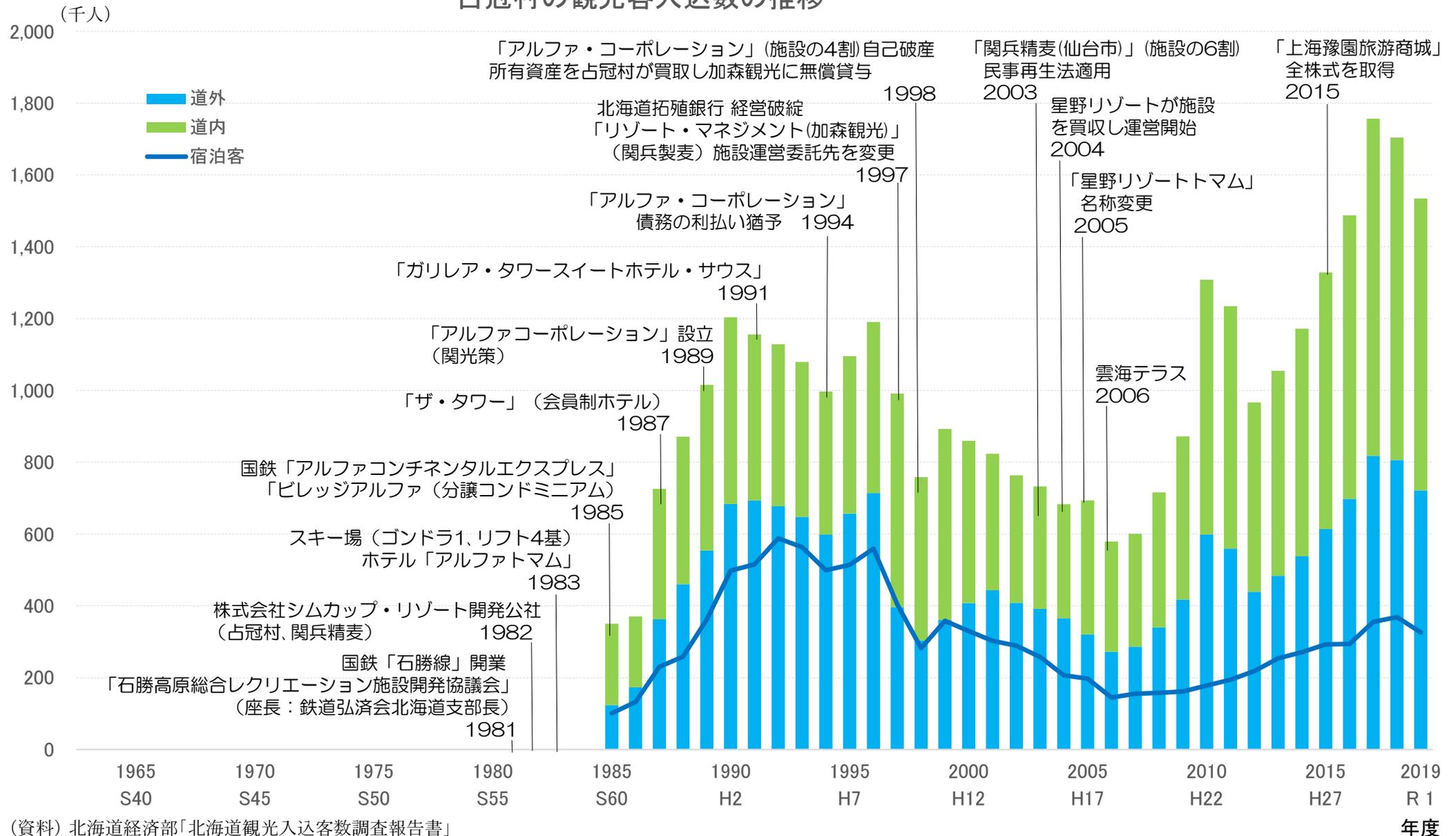
現在の主要宿泊施設	客室数	収容力
ホテルまほろば	398室	1,706人
第一滝本館	393室	1,200人
登別プリンスホテル石水亭	248室	975人
祝いの宿・登別グランドホテル	241室	747人
登別万世閣	200室	700人
名湯の宿・パークホテル雅亭	153室	594人
ホテルゆもと登別	69室	298人
観光ホテル滝乃家	30室	108人
旅亭花ゆら	37室	185人
滝本イン	47室	…
御やど清水屋	39室	…
温泉オーベルジュゆふらん	32室	128人
滝乃家別館玉乃湯	24室	…
花鐘亭はなや	21室	…
望楼 NOGUCHI 登別	40室	96人

観光地の変遷 ○ トナムリゾート（占冠村）



昭和50年代から過疎化の進行していた占冠村では、1979年に「日高地方特定農山村開発調査」が行われ、北海道開発庁からトナム山の開発が提案されました。1982年に「株式会社シムカップ・リゾート開発公社」（第三セクター）が設立されスキー場やホテルの建設が始まりました。

占冠村の観光客入込数の推移

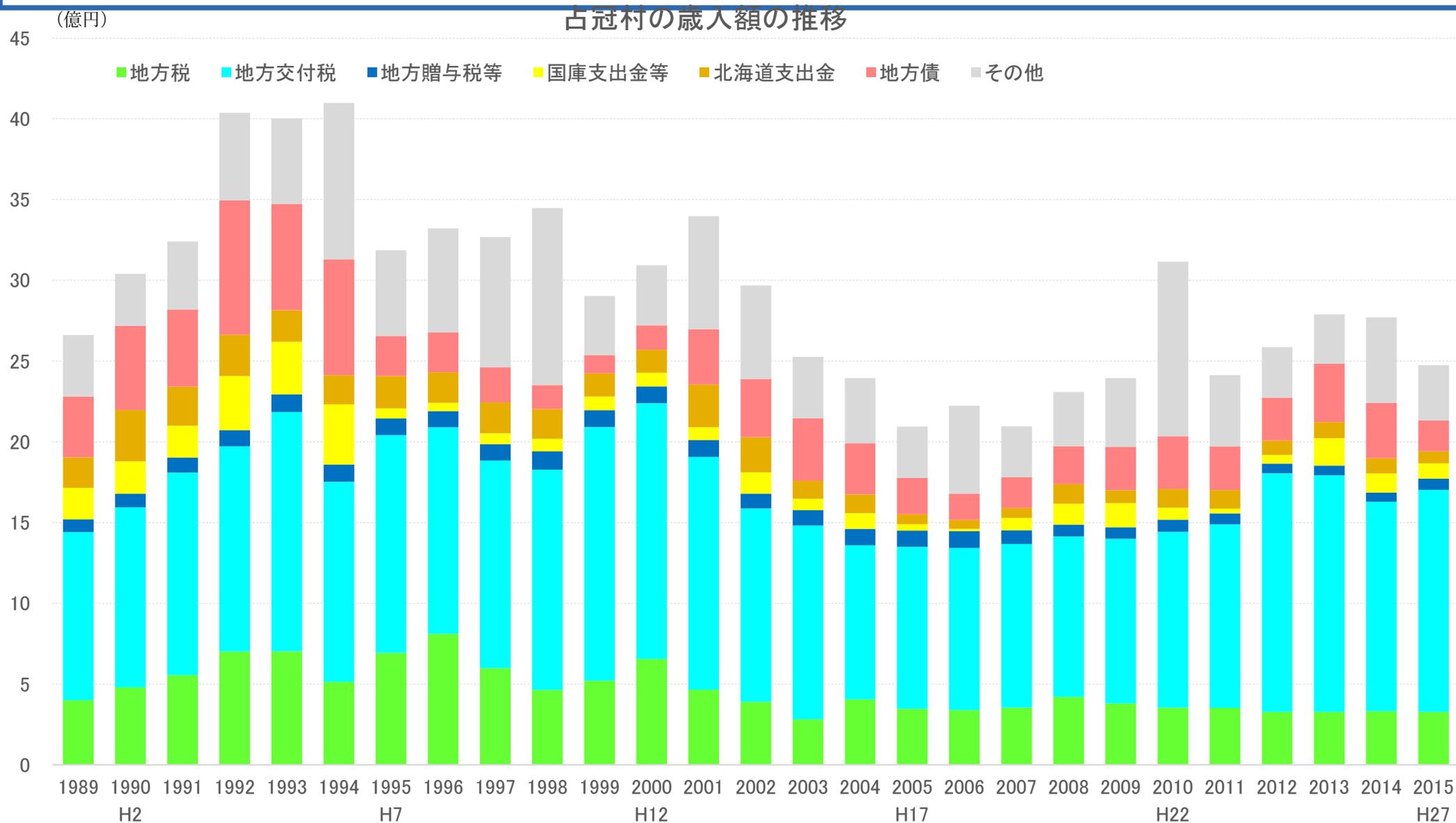


観光地の変遷 ○ トナムリゾート（占冠村）



トナムリゾート開発（宿泊施設等の新雪）に伴う固定資産税の増加や、関連するインフラ整備に係る起債等によって、占冠村の財政規模は40億円以上に拡大しました。

所有会社の経営破綻や、人口減少による税収の落ち込み等によって、財政規模は半減し、近年は25億円前後で推移しています。



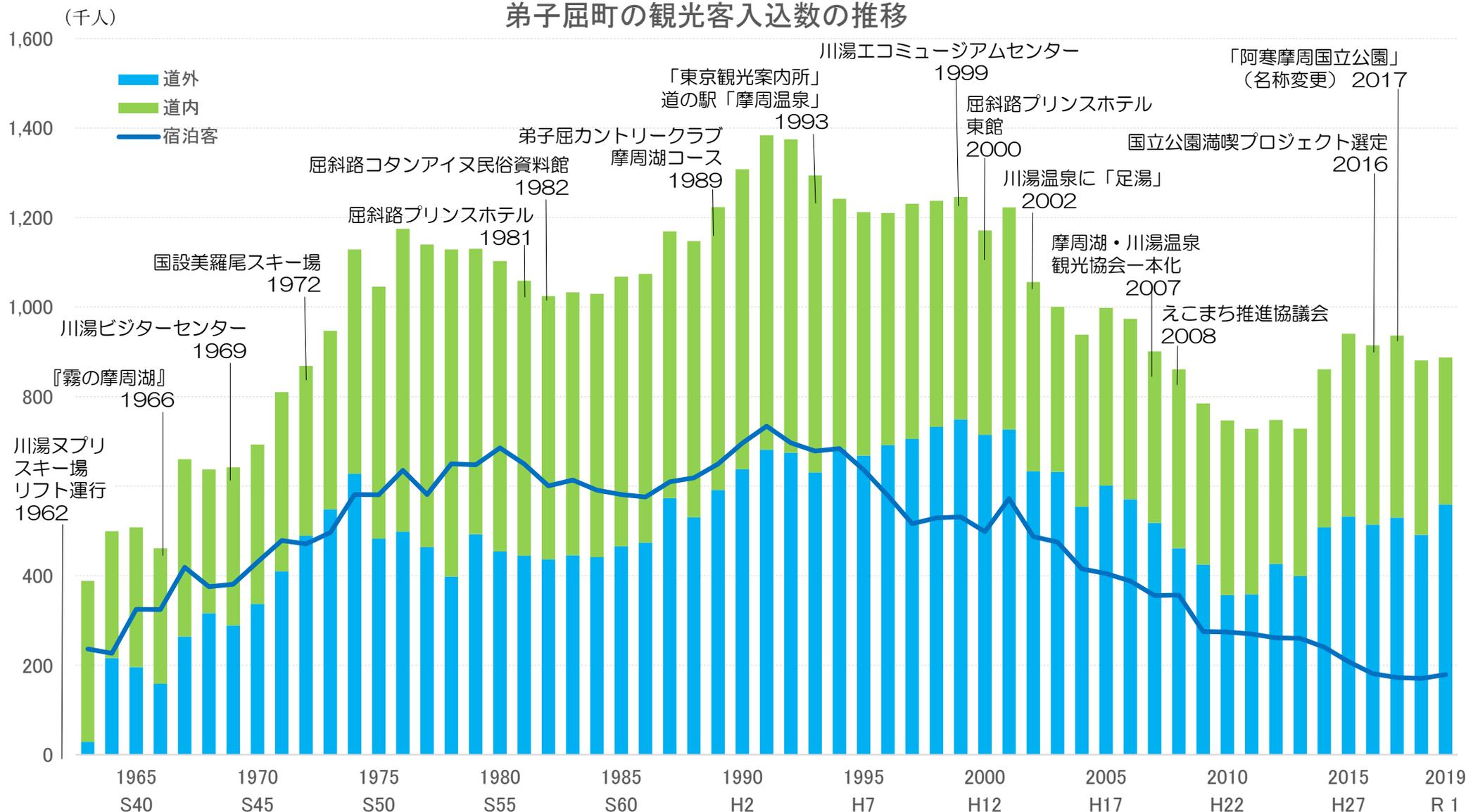
(資料) 総務省「地方財政状況調査」

観光地の変遷 ○ 川湯温泉（弟子屈町）



弟子屈町は、北海道の東部に位置し、透明度において世界有数の摩周湖、日本最大級のカルデラ湖の屈斜路湖をはじめ、豊かな自然に恵まれており、行政面積の65%が阿寒国立公園内に指定されています。町は、明治18年に温泉の湧出により現在の弟子屈市街地、川湯市街地などに温泉宿を経営するに至ったのが開拓の始まりとされており、農業は後発で発展してきました。

弟子屈町の観光客入込数の推移



(資料) 北海道経済部「北海道観光入込客数調査報告書」

※1996年度までの道外客、道内客は、摩周湖、川湯、屈斜路湖の入込客数の最大値を表示している

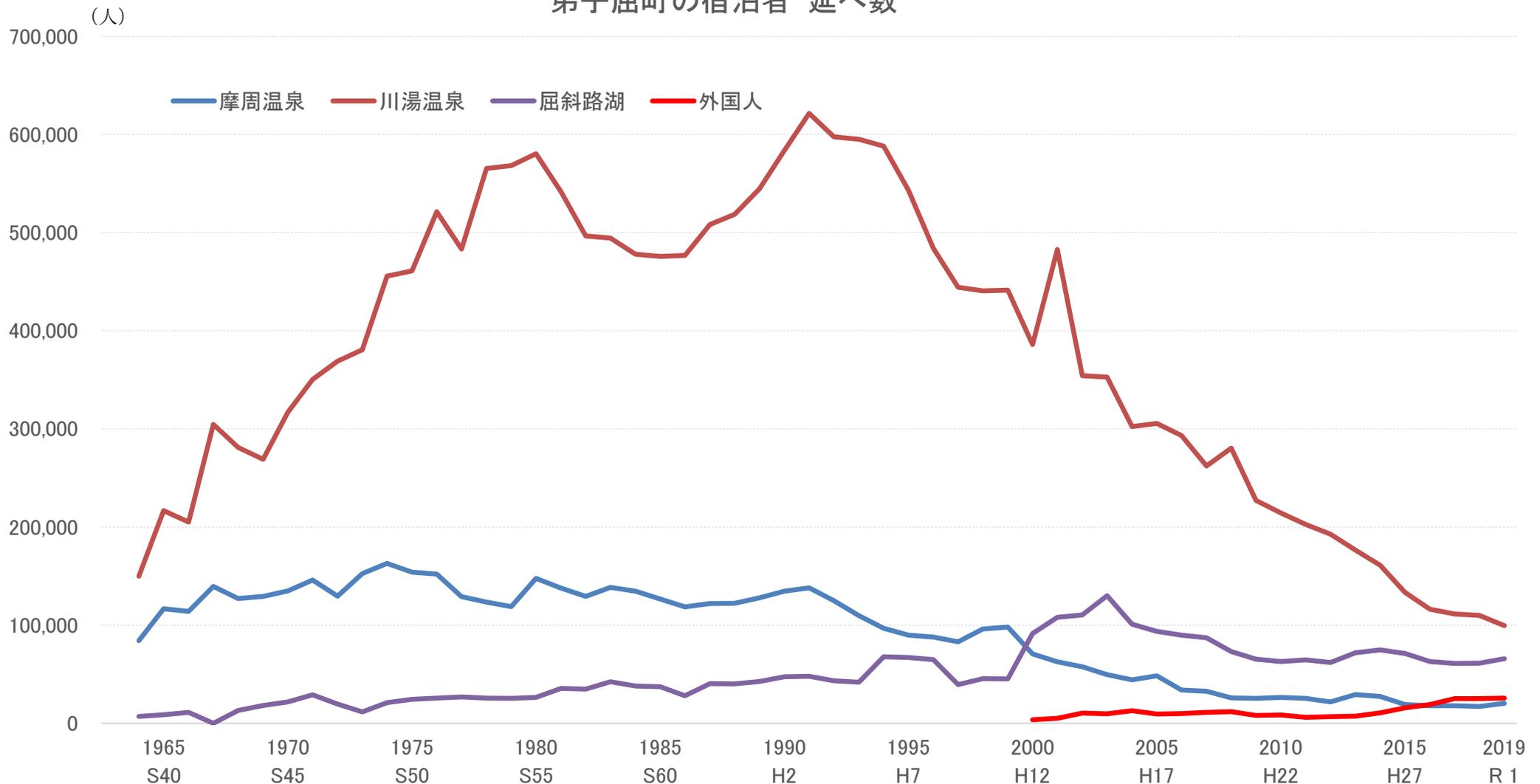
観光地の変遷 ○ 川湯温泉（弟子屈町）



川湯温泉は、摩周湖を訪れる道外観光客や、釧路市等の企業の年中行事としての宴会など、大勢の宿泊客で賑わっていました。最盛期の1970年代には20近くの旅館がありました。バブル崩壊後は宿泊客が減少の一途をたどり、現在はわずか8施設にまで減少しています。

今日では、環境省の補助を利用して廃ホテルを解体し、良好な景観を再構築するとともに、アトサヌプリ(硫黄山)のガイドツアーやEVの貸出など、「てしかがスタイルのエコツーリズム」に取り組んでいます。

弟子屈町の宿泊者 延べ数



(資料) 弟子屈町観光商工課「観光データ」

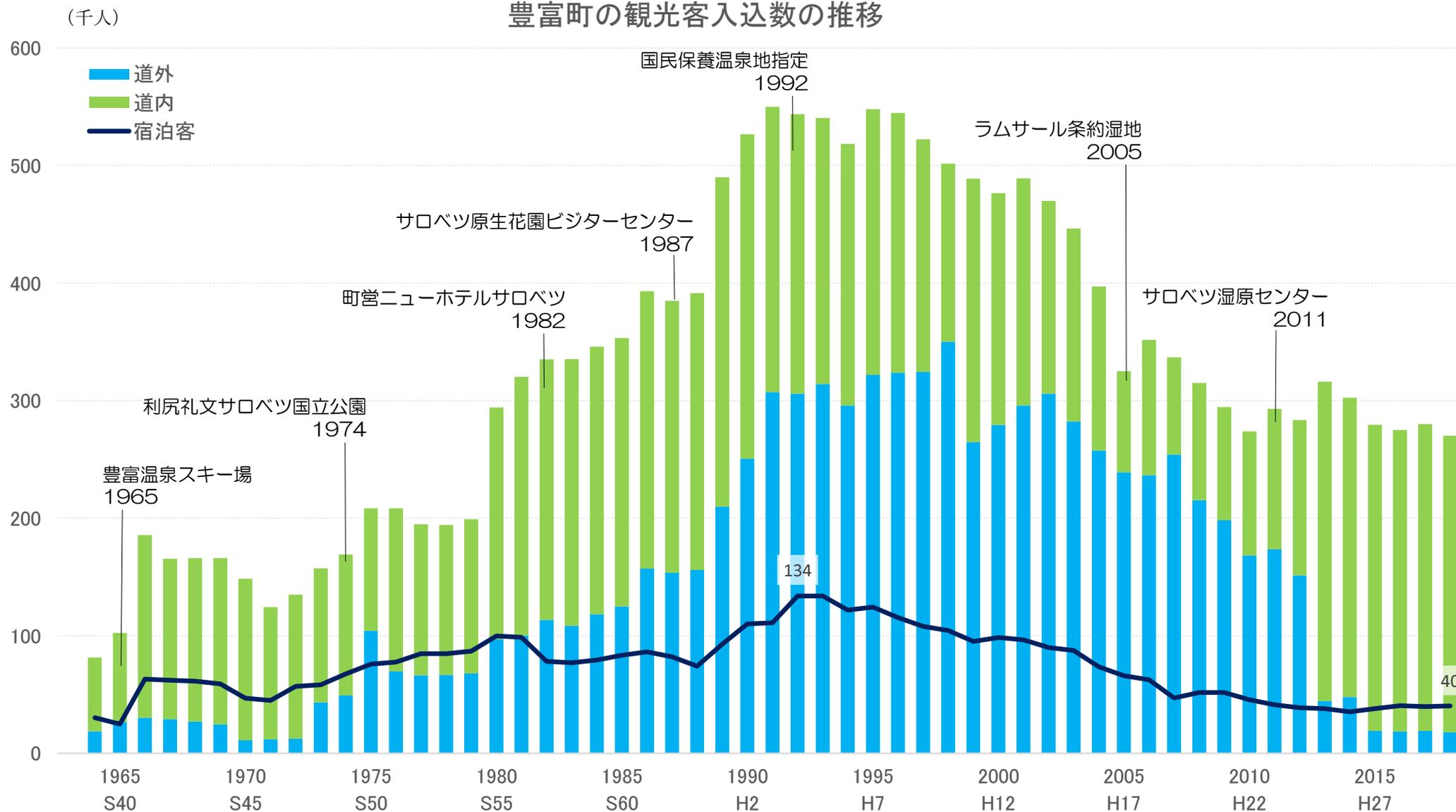
観光地の変遷 ○ 利尻、礼文、稚内（豊富町）



豊富町は、広大な高層湿原が広がるサロベツ原野を有し、また、利尻・礼文を訪れる際の中継地として、多くの観光客で賑わいました。

昭和初期に開湯した豊富温泉は、黄濁し僅かに油分を含んだ温泉で、近年は、アトピーや乾癬など皮膚疾患に効能があると注目されており、温泉を活かしたまちづくりを展開しています。

豊富町の観光客入込数の推移



(資料) 北海道経済部「北海道観光入込客数調査報告書」



豊富温泉は、大正14年より石油の試掘を行ったところ、高圧の天然ガスと共に43℃のお湯が噴出したことから開湯しました。かつては、夏季は最北の地観光に訪れる道外の団体観光客、冬季には周辺の漁師や農家の湯治場として多くの人々が訪れ、最盛期には15軒の旅館や民宿が営業していました。しかし、バブル崩壊などを背景に離島ブームが去り、年中行事であった会社や町内会等の団体旅行も減っていったため、10万人以上だった宿泊客は、4万人前後にまで減少しています。

一方、温泉は、古くから皮膚疾患や火傷などに効果があるとされており、1992年には国民温泉保養地に指定され、2017年には、町営入浴施設が「温泉利用型健康増進施設」に認定（厚生労働省）されました。近年は、長期の湯治者も増えてきており、湯治をきっかけに移住する人もみられるようです。

また、町では1万6千頭の乳牛がおり、7万トン余の生乳が出荷されています。町内の豊富牛乳公社（セコマが出資）では、「豊富牛乳」を販売するほか、ヨーグルトやバターを生産しています。

老舗の川島旅館でも、地元産の牛乳を原料としたプリンや「フレーバーバター」を商品化しており、東京の百貨店等での販売も好評を博しています。旅館の庭には仔牛が飼われていることもあり、生きものとの触れあいを楽しむこともできます。旅館のおかみは、サロベツ湿原との共生を図っている地元の酪農家を応援していきたいと語っています。

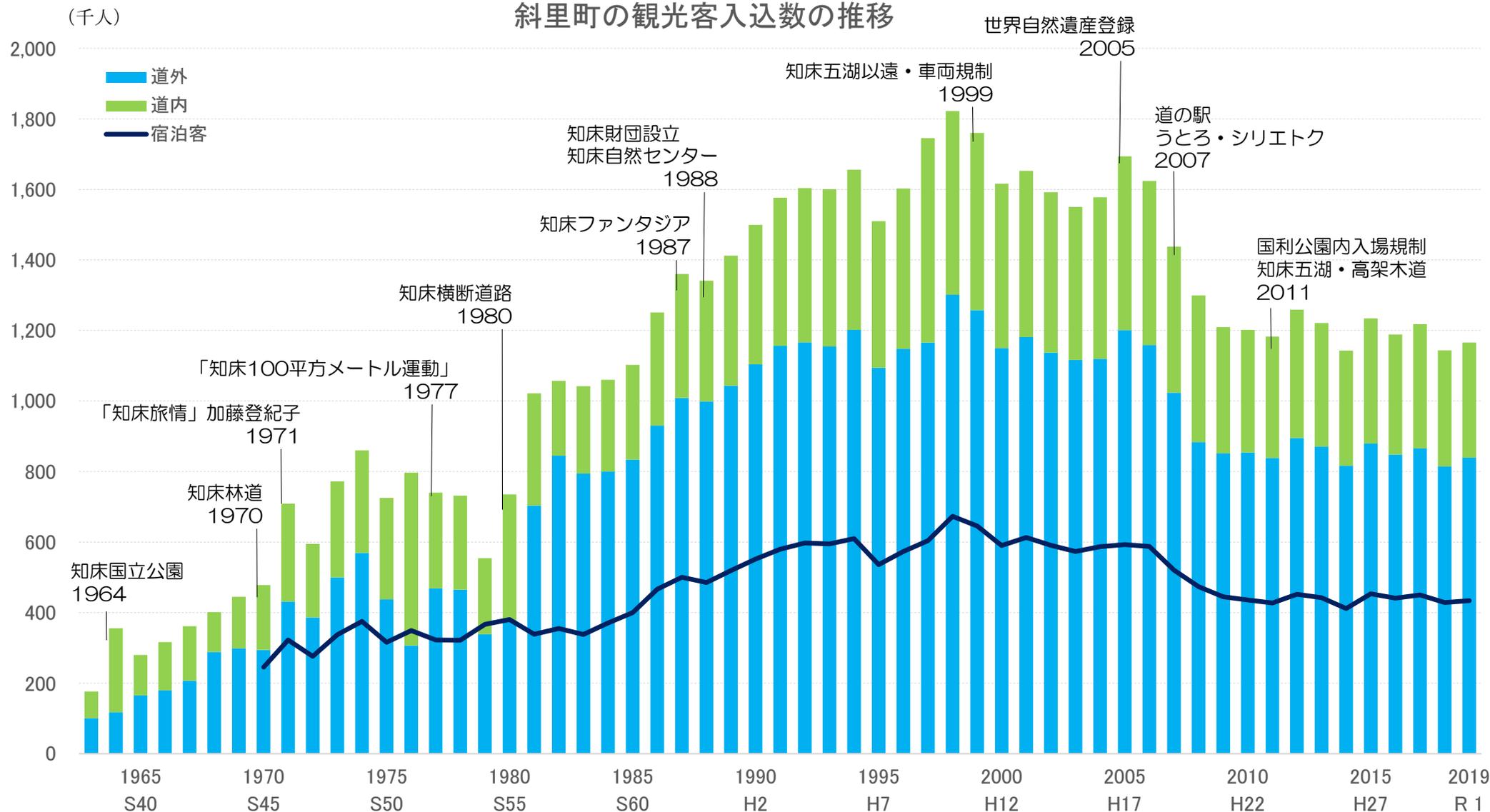


観光地の変遷 ○ 知床（斜里町）



斜里町は、世界遺産・知床の自然環境を観光資源としてきており、その適切な保全を図っています。知床観光の拠点となっているウトロ地区は、旅館や民宿が立地しているとともに、知床岬を往復する観光船が発着しています。道の駅「うとろシリエトク」では、観光情報などを提供しています。自然保護等のガイドを受けながら、野生動物観察や流氷ウォークを楽しむことができます。

斜里町の観光客入込数の推移



(資料) 北海道経済部「北海道観光入込客数調査報告書」



斜里町では、都市の企業社員の仕事を提供するテレワーク支援事業を行っており、職住一体の施設「しれところぼ」を、利用者に無償で貸し出しています。これまでの利用企業は日立製作所、損害保険ジャパン日本興亜など208社（2019年11月末現在）、利用人数は497人に上っています。

利用する企業の用途は、個人や集団の研修が多く、期間は1週間以内から1カ月を超える場合もあるようです。利用者は町主催のイベントに参加するなど、地元の人々と交流を深めることもできます。



ワーケーションで楽しむことが出来る豊富なアクティビティ

(資料) 株式会社Zooops Japan (ズープスジャパン)

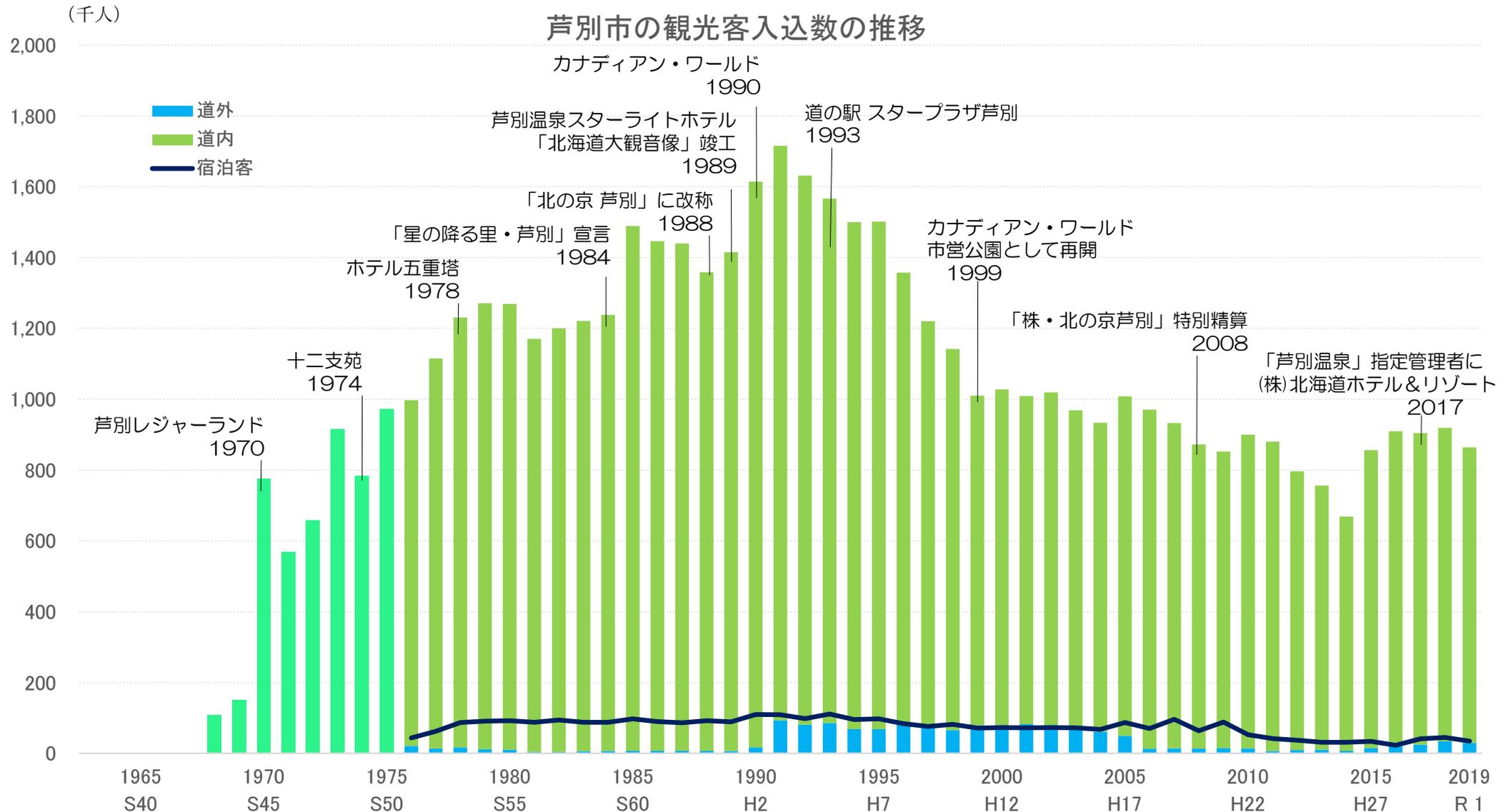
IT企業経営者を対象とした
知床斜里・視察ツアーのスケジュールの一部

7:30	知床第一ホテル 朝食
8:45	知床第一ホテル ロビー集合
9:00 ～ 10:30	流氷ウォーク
11:00	知床第一ホテル戻り 集合
11:00 ～ 12:00	移動 (バス)
12:00	天に続く道 (昼食) 山小屋ジンギスカン
13:45	移動 (バス)
14:00 ～ 16:00	スノーモービル体験
17:00	ホテル着 ① しれところぼ (無料施設) ② 知床倶楽部 (ペンション)
19:00	斜里町関係者との懇親会

観光地の変遷 ○ 富良野、芦別（芦別市）



芦別市は、国民保健温泉地に指定された芦別温泉があり、森林に囲まれ澄みきった空を生かし、「星の降る里」をイメージとして観光に力を入れています。近年は、全日本女子バレーボール合宿のHTに認定されたことを契機に、「合宿の里構想」推進しており、「なまこ山総合運動公園」、「宿泊交流センター」を整備し、北海道内外の学生や実業団、ナショナルチームなど幅広い合宿を受け入れています。



（資料）北海道経済部「北海道観光入込客数調査報告書」



芦別市では、明治30年から石炭が掘り始められ、5炭鉱を有する「炭鉱のまち芦別」が築かれてきましたが、昭和30年代以降のエネルギー革命により、次々と閉山を余儀なくされました。

地元の商工業者等は、新たな産業を生み出そうと観光開発に力を注ぎ、1970年に温水プールや大露天風呂、ボウリング場、宿泊施設などを備えた「芦別レジャーランド」が開業しました。聖徳太子等を祀った「十二支苑」の開園で高齢者に好評を博し、'78年には、「ホテル五重塔」を開業しました。'88年に、「北の京 芦別」に改称し、その後、大観音像の竣工、ホテル三十三間堂の開業等が進められました。

さらに、三井芦別炭鉱閉山に伴う失業者対策として、「炭鉱から観光へ」を標榜し、'90年「カナディアンワールド」を開園しました。「赤毛のアン」の世界を再現した、45ヘクタール（TDLは51ha）の広大な敷地は、丘と森に囲まれ、累計230万人が訪れました。

しかし、バブル経済崩壊以降の不況長期化、国民の観光志向の変化、テーマパーク乱立等による競争環境、相対的な立地条件の悪さなどの要因から、入込客数は年々減少していきました。「北の京 芦別」は2013年8月に、「カナディアンワールド」は2019年10月で幕を閉じました。



「北の京 芦別」(旧芦別レジャーランド)全景



「カナディアンワールド」全景